



コンドーテック株式会社

決算説明資料

平成28年11月8日

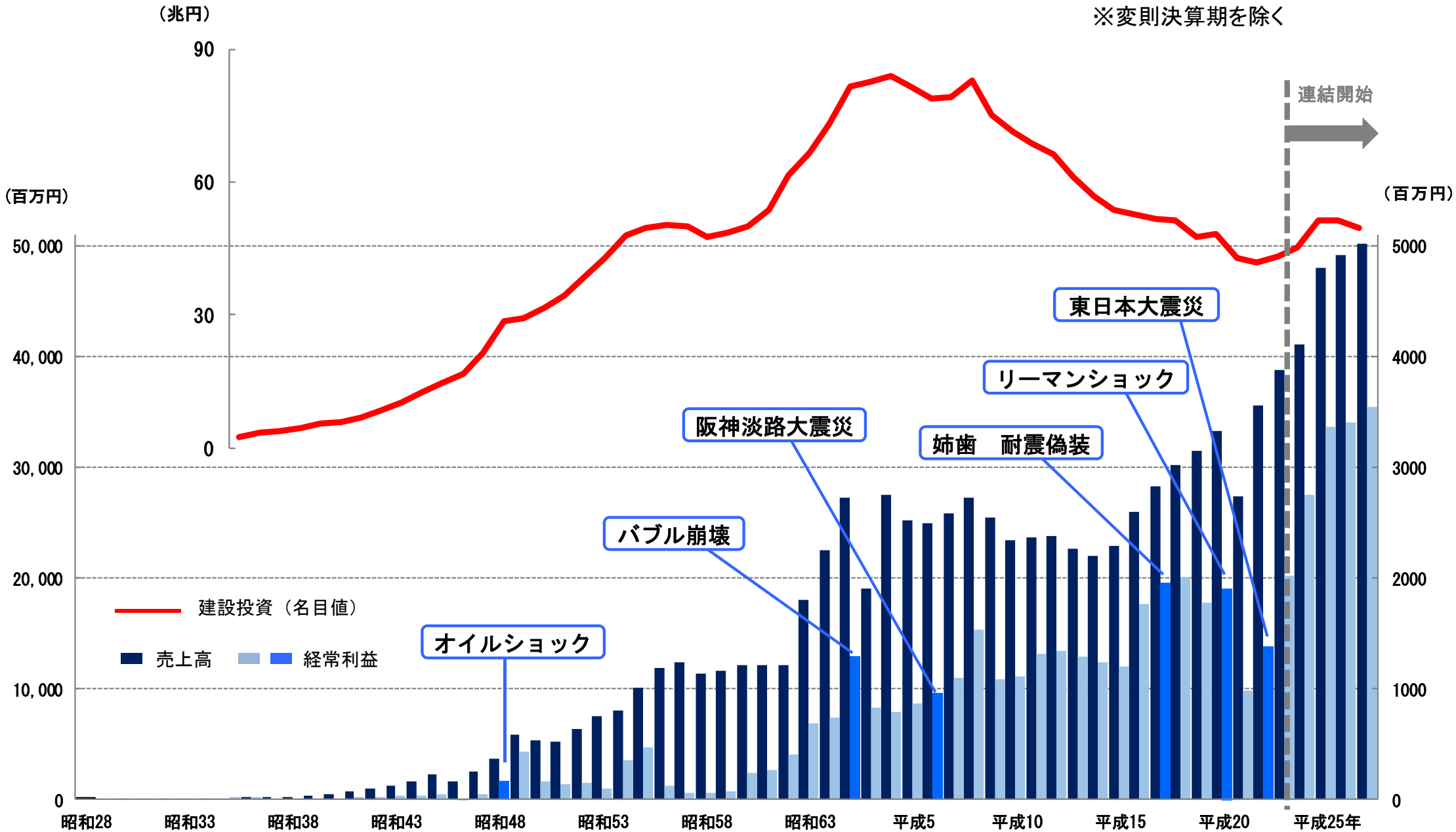
■ 目次 ■

1. 当社の概要	P.2
2. 主要製・商品	P.10
3. 平成29年3月期第2四半期の実績と分析	P.15
4. 平成29年3月期第2四半期の各セグメントの実績と分析	P.20
5. 成長戦略	P.28
6. 株主還元	P.41

1.当社の概要

昭和28年設立以来、経常利益ベースでの赤字は、一度もありません。

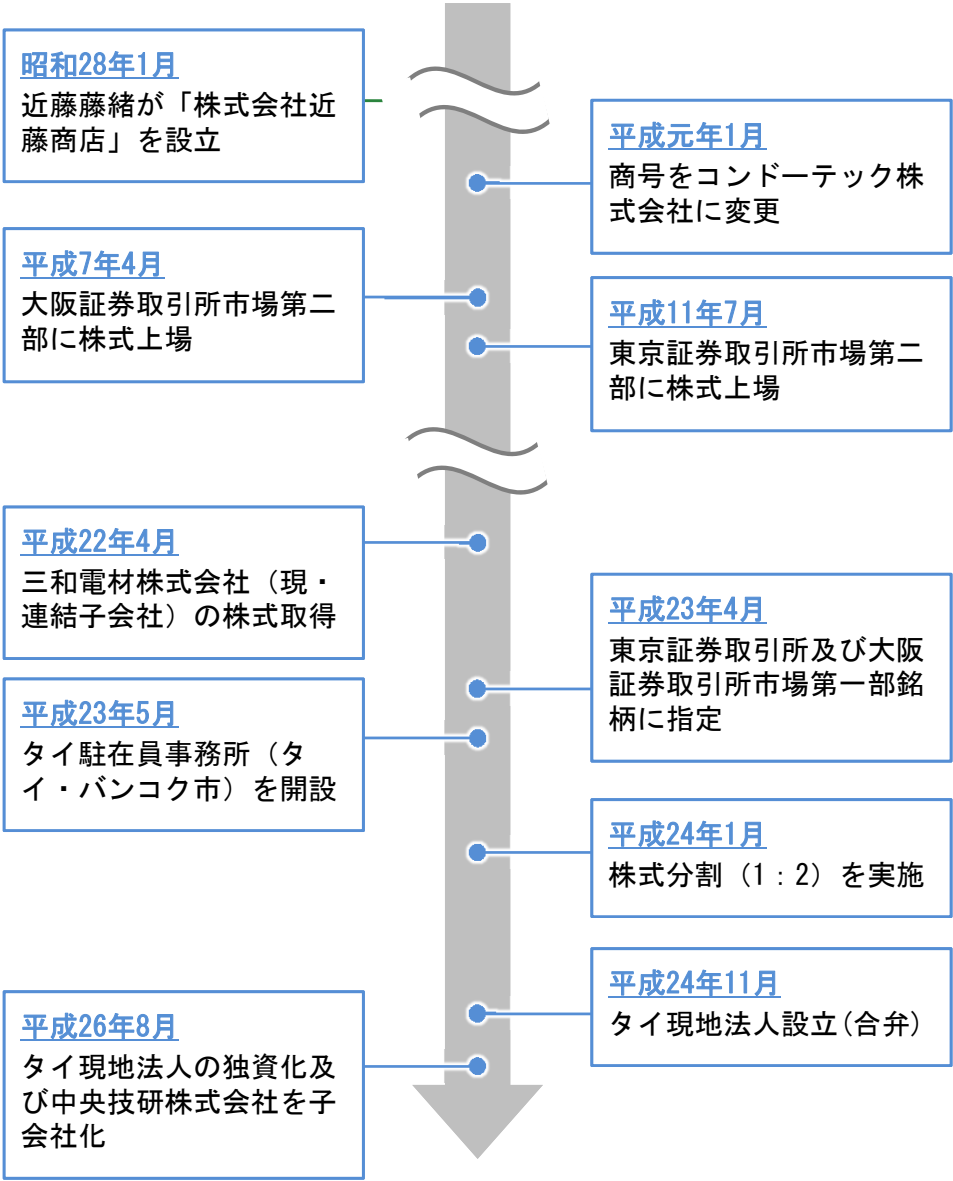
※変則決算期を除く



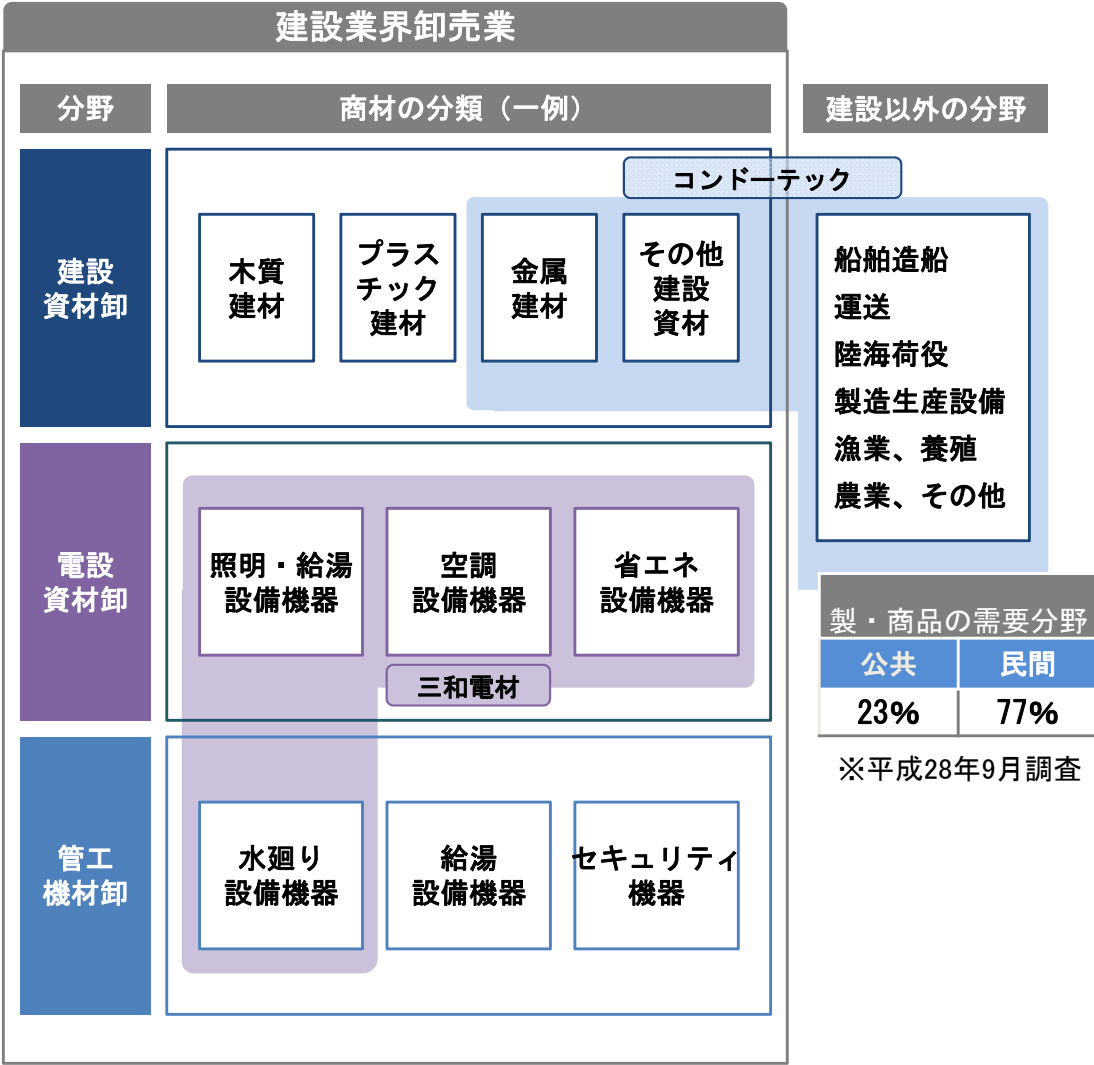
当社の概要

商号	コンドーテック株式会社（KONDOTEC INC.）
グループ会社	三和電材株式会社、KONDOTEC INTERNATIONAL（THAILAND）CO.,LTD.、中央技研株式会社
設立	昭和28年（1953年）1月
代表取締役社長	近藤 勝彦
本社	本社：大阪市西区境川二丁目2番90号 東京本社：東京都江東区南砂一丁目9番3号 （注）平成25年7月1日より「東京本社」を設置し、大阪との二本社制となっております。
従業員	629名（単体）759名（連結）（平成28年3月末現在）
資本金	26億6,648万5千円
上場区分	東証1部
事業内容	□ 金物小売業を中心に、産業資材を製造・仕入販売 □ 鉄骨加工業者向けに、鉄構資材を製造・仕入販売 □ 電気工事業者や電気小売店向けに、電設資材を仕入販売
主要取扱品目	□ 製品 ターンバックル、ブレース、足場吊りチェーン、ねじ製品、アンカーボルト、建設資材、機械装置他 □ 商品 金物類、チェーン、ワイヤロープ、鉚螺、建設資材、照明器具、分電盤、空調機器、エコ商品他

会社設立沿革



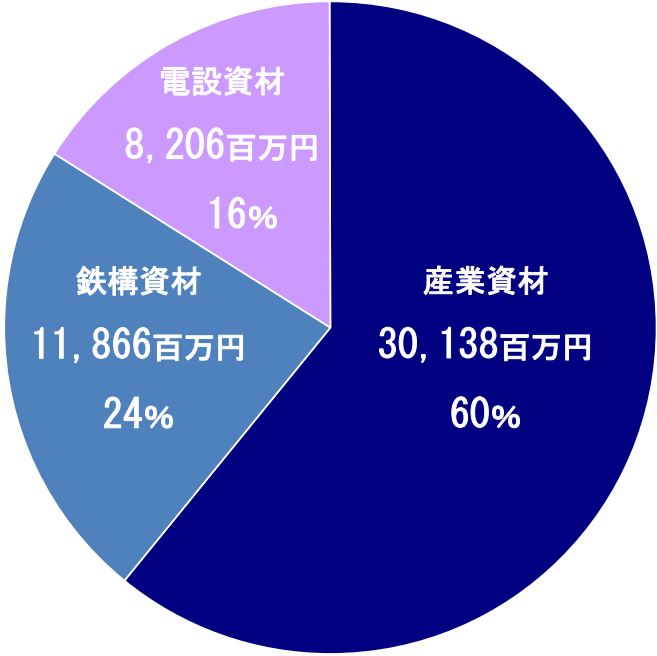
事業ドメイン



事業別売上構成

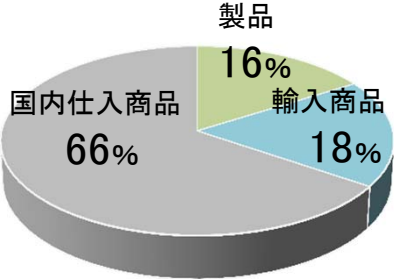
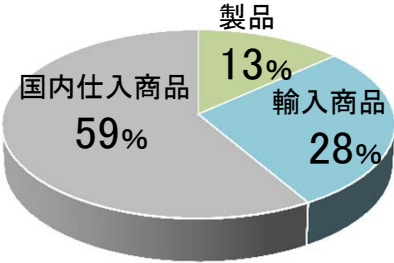
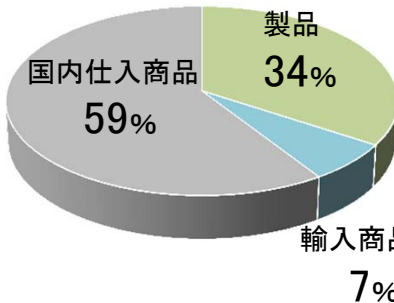
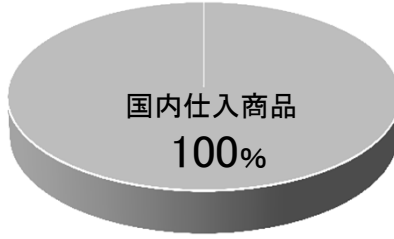
セグメント 区分	主な販売先	主な製商品
産業資材	□ 金物屋 □ 問屋 □ ホームセンター等	□ ターンバックル □ シャックル □ 足場吊りチェーン □ フック、クリップ □ 各種鋳螺（ねじ、釘） □ コンテナバッグ □ ブルーシート □ 機械装置 他
鉄構資材	□ 鉄骨加工業者	□ ターンバックルブレース □ アンカーボルト □ ハイテンションボルト □ 自立コンピース □ コンデッキバー □ セラミックスタブ 他
電設資材	□ 電気工事店 □ 家電小売店	□ 空調機器 （エアコン、換気扇、ダクトファン） □ 照明器具 （LED照明、住宅照明器具他） □ エコ商品 （太陽光発電、エコキュート） □ 電線、分電盤、制御盤、各種センサー他

セグメント別売上高（平成28年3月期）

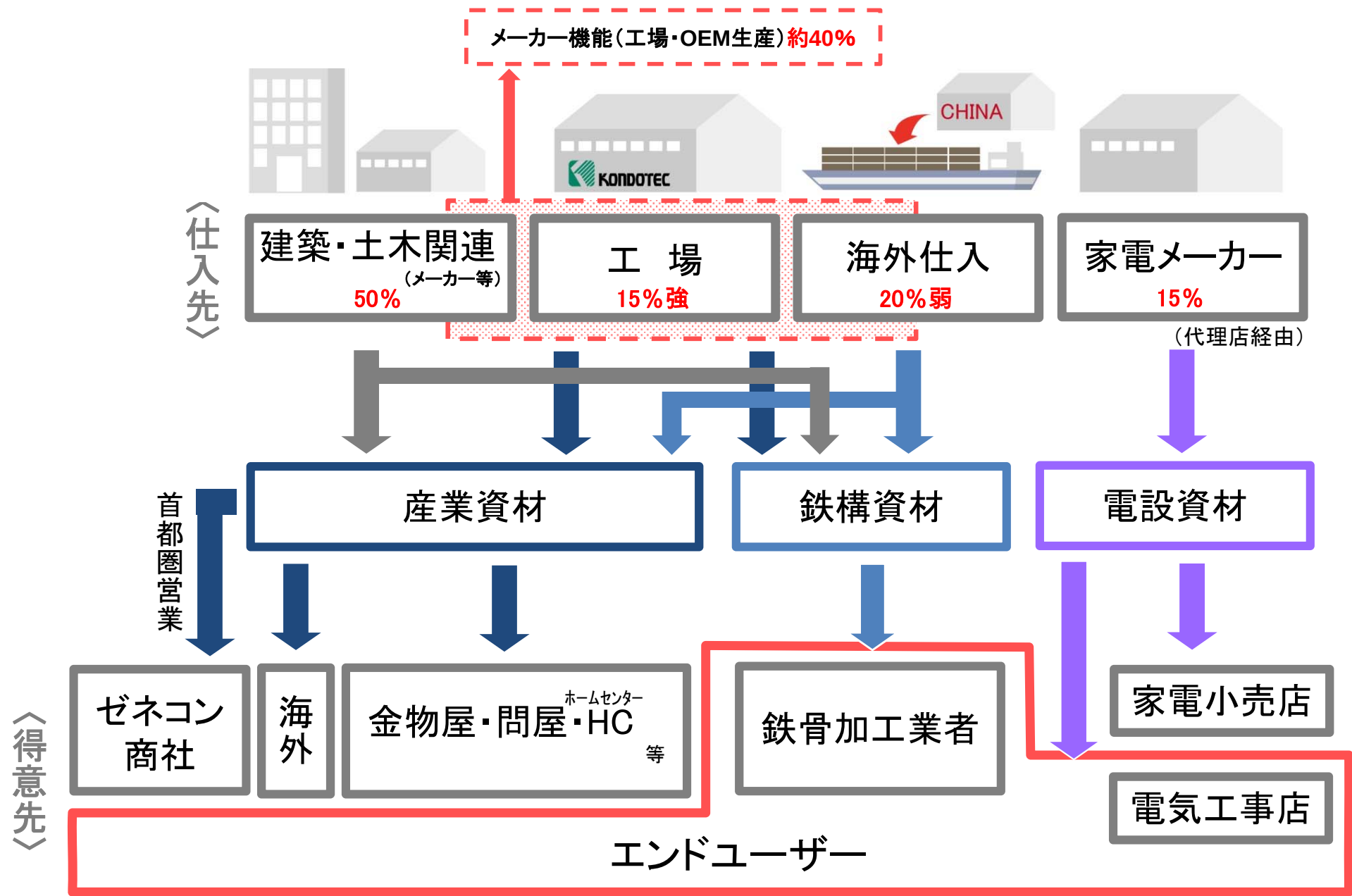


単体の売上高は、全体の84%を占めております。

(H28/3時点)

		連結	産業資材	鉄構資材	電設資材
売上高		50,211百万円 	30,138百万円 	11,866百万円 	8,206百万円 
		※円グラフにタイ現地法人・中央技研(株)は含めておりません。			
営業拠点数		57拠点	28拠点	16拠点	13拠点
アイテム数		約50,000点	約40,000点		約10,000点
従業員数		759人	239人	92人	119人
販売先数		約21,000社	約13,000社	約4,000社	約4,000社
開新 拓規	件数	2,623件	1,643件	615件	365件
	売上高	3,319百万円	1,943百万円	683百万円	692百万円

※売上高を除いた項目には、タイ現地法人・中央技研(株)は含めておりません。



主要商材の市場規模と当社シェア

〈H28/3現在〉

ブレース
市場規模
約100億円
32.2%

型枠関連資材
市場規模
約1,400億円
1.2%

Zマーク金物
市場規模
約430億円
3.1%

アンカーボルト
市場規模
約130億円
15.4%

ハイテンション
ボルト
市場規模
約170億円
13.3%

溶接ワイヤー
市場規模
約100億円
7.6%

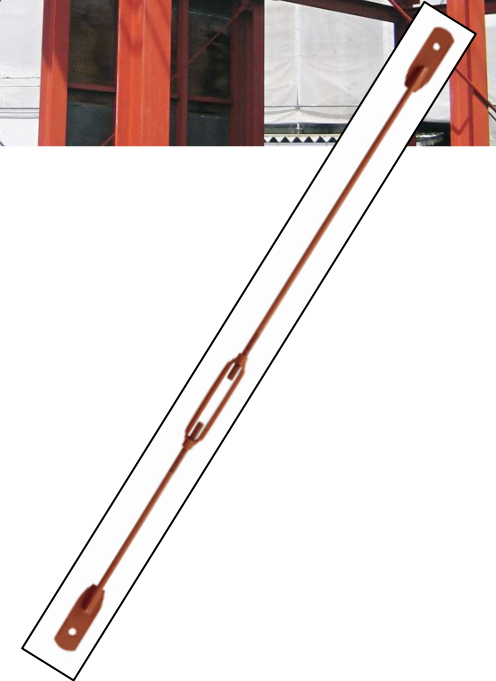
コンテナバッグ等
(数量ベース)
3.8%

その他、ターンバックル、
足場吊りチェーン、シャックル、
ワイヤロープ、ネット・シート類など、
多くの商材を販売しております。

2.主要製・商品

取扱いアイテムは5万点。時代の変化・ニーズに合わせ、さまざまな業界に供給しています。

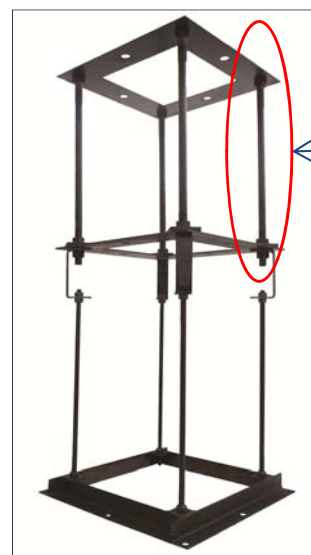




アンカーボルトは土地に施工した基礎コンクリートと建物をつなぐための重要部材です。基礎コンクリートに取り付けられた建物が移動や転倒することを防ぐ役割を持っています。



施
工
後



アンカーボルト

アンカーフレーム (コンベース・エコ)



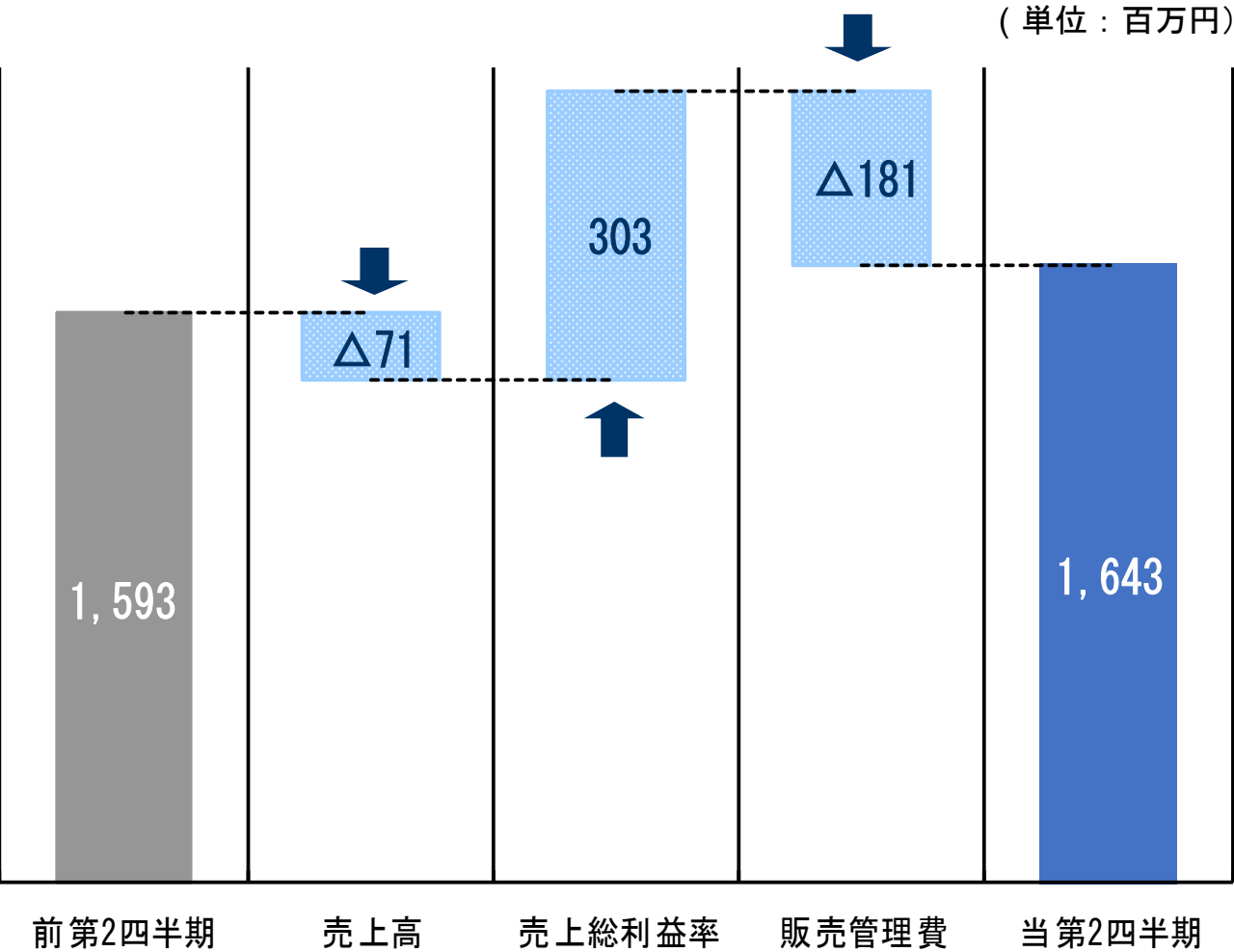
当社のコンテナバッグは、がれき処理・除染作業でも使用されています。重機によって、がれき・除染土がコンテナバッグに収納され、仮置き場へ搬入されます。



3.平成29年3月期第2四半期の実績と分析

(単位:百万円)

	前第2四半期 (平成28年3月期)	当第2四半期 (平成29年3月期)	前年同期比	
			金額	%
売上高	24,771	24,428	△343	△1.4
売上総利益	5,185	5,416	+231	+4.5
販売管理費	3,592	3,773	+181	+5.1
営業利益	1,593	1,643	+49	+3.1
経常利益	1,651	1,713	+61	+3.7
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,076	1,157	+80	+7.5



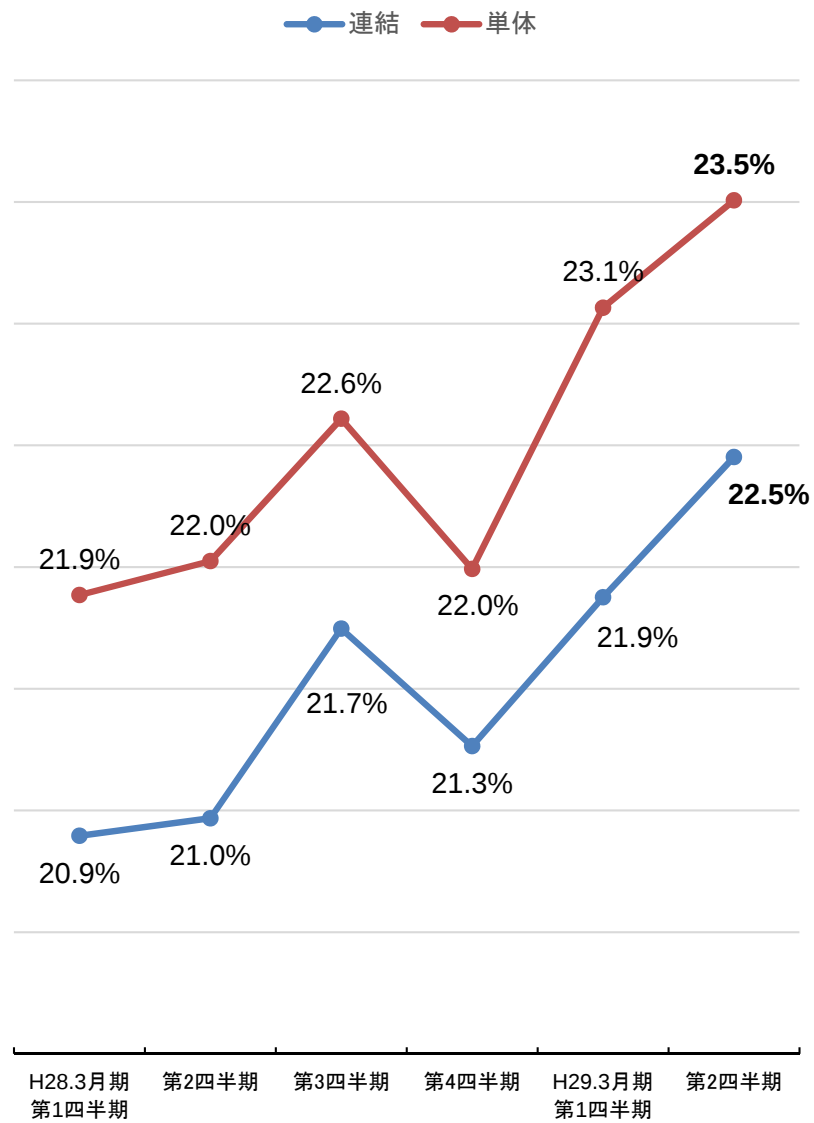
売上総利益

20.9%→22.2%

販売管理費

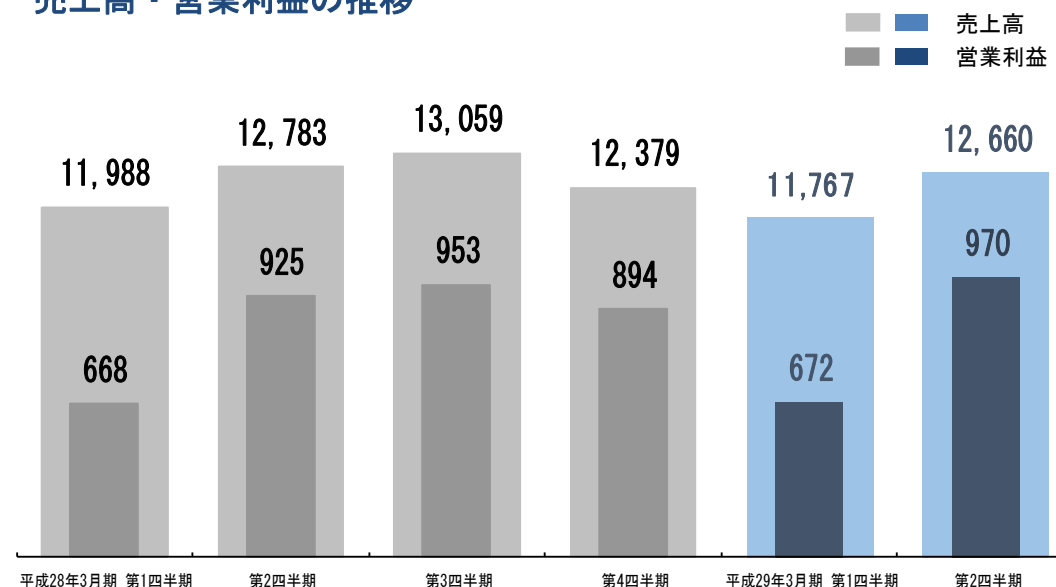
給与 +50百万円、退職給付費用 +49百万円、
運賃荷造費 +18百万円

売上総利益率の四半期別推移

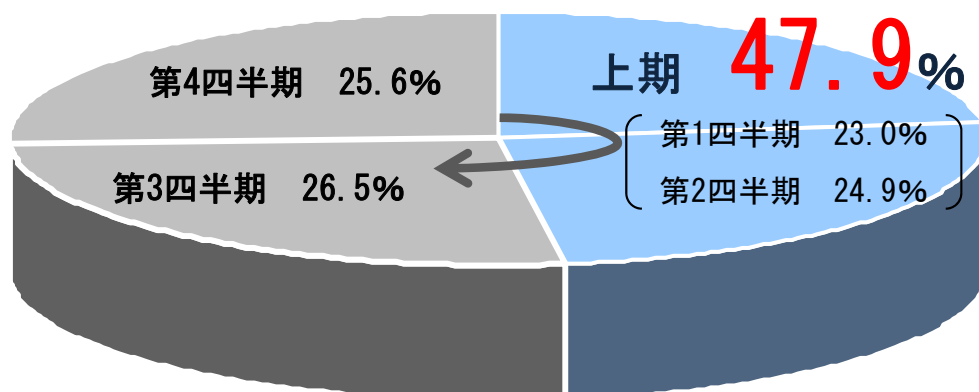


	当第2四半期	通期計画	進捗率
売上高	24,428	51,650	47.3%
売上総利益	5,416	11,284	48.0%
販売管理費	3,773	7,831	48.2%
営業利益	1,643	3,453	47.6%
経常利益	1,713	3,551	48.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,157	2,317	49.9%

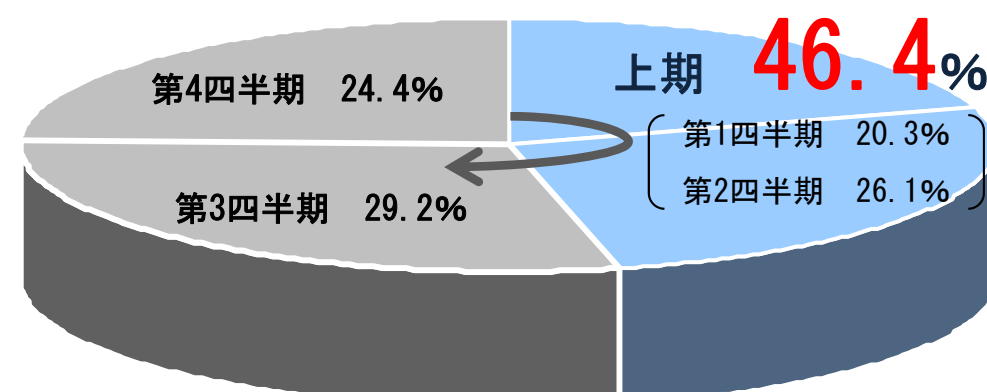
売上高・営業利益の推移



四半期別売上高構成比（過去5年平均）



四半期別営業利益構成比（過去5年平均）



(単位:百万円)

	前期末	当第2四半期末	増減
資産の部			
流動資産	24,539	24,087	△451
固定資産	10,105	10,116	+10
資産合計	34,645	34,204	△440
負債の部			
流動負債	11,922	11,134	△787
固定負債	1,620	1,517	△103
負債合計	13,543	12,651	△891
純資産の部			
株主資本	22,586	23,034	+447
その他の包括利益累計額	△1,521	△1,522	△0.6
純資産合計	21,102	21,553	+450
負債・純資産合計	34,645	34,204	△440

(単位:百万円)

増減要因

資産の部

【流動資産】

- ・現預金…+105
- ・受取手形及び売掛金…△518
- ・電子記録債権…+159
- ・棚卸資産…△231

【固定資産】

- ・有形固定資産…+38 / 工場設備等取得による増加

負債の部

【流動負債】

- ・支払手形及び買掛金…△68
- ・電子記録債務…△525
- ・未払法人税等…△114 / 法人税等確定納付による減少

純資産の部

【株主資本】

- ・繰越利益剰余金…+858
→親会社株主に帰属する四半期純利益により1,157百万円増加、
配当により299百万円減少
- ・自己株式…△407 / 自己株式の取得

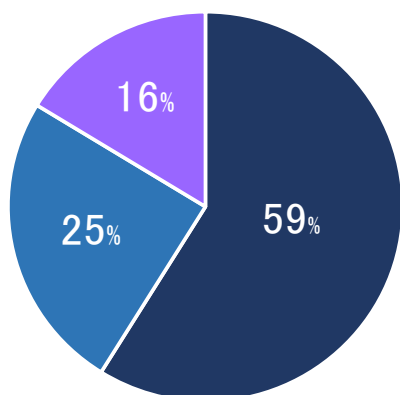
4.平成29年3月期第2四半期の各セグメントの実績と分析

(単位：百万円)

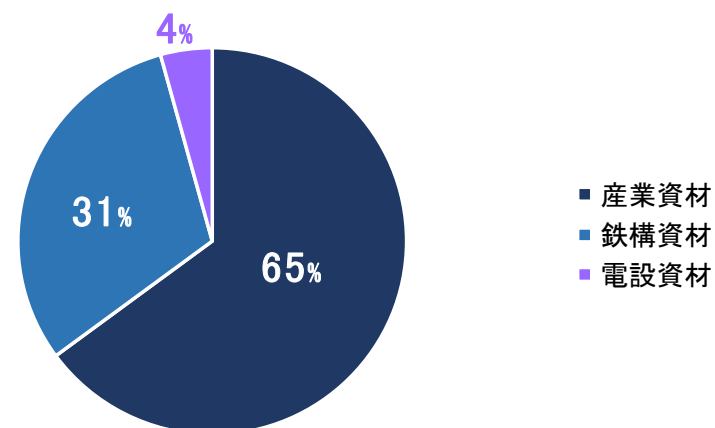
	売上高			セグメント利益又は損失		
	前第2四半期	当第2四半期	増減率	前第2四半期	当第2四半期	増減率
産業資材	14,766	14,380	△2.6%	975	1,066	+9.3%
鉄構資材	5,822	6,070	+4.2%	483	506	+4.8%
電設資材	4,182	3,977	△4.9%	141	70	△50.0%
調整	—	—	—	△6	△0.6	—
計	24,771	24,428	△1.4%	1,593	1,643	+3.1%

※セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

セグメント別売上割合



セグメント別利益割合

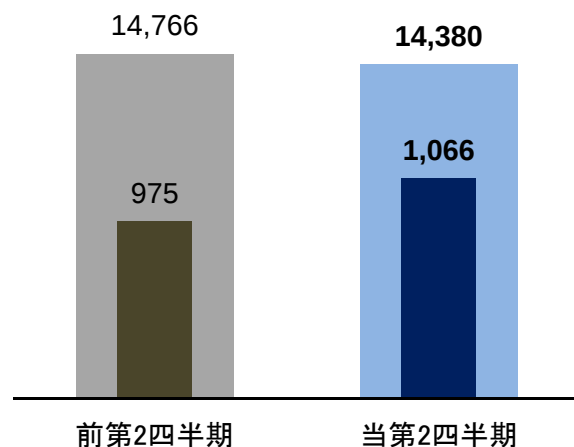


- 産業資材
- 鉄構資材
- 電設資材

売上高・セグメント利益又は損失推移

■ 前年同期比較

■ 売上高
■ セグメント利益又は損失

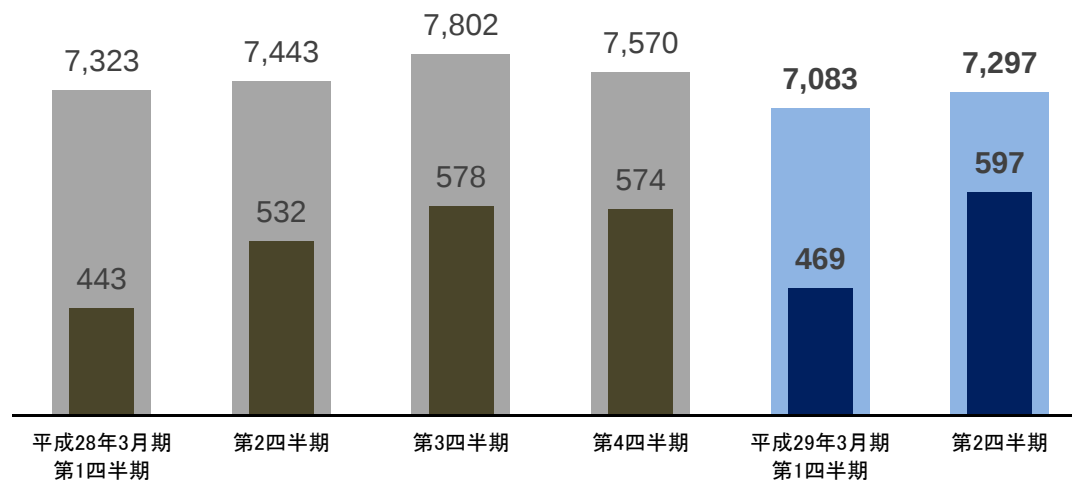


前年同期比
△2.6%

前年同期比
+9.3%

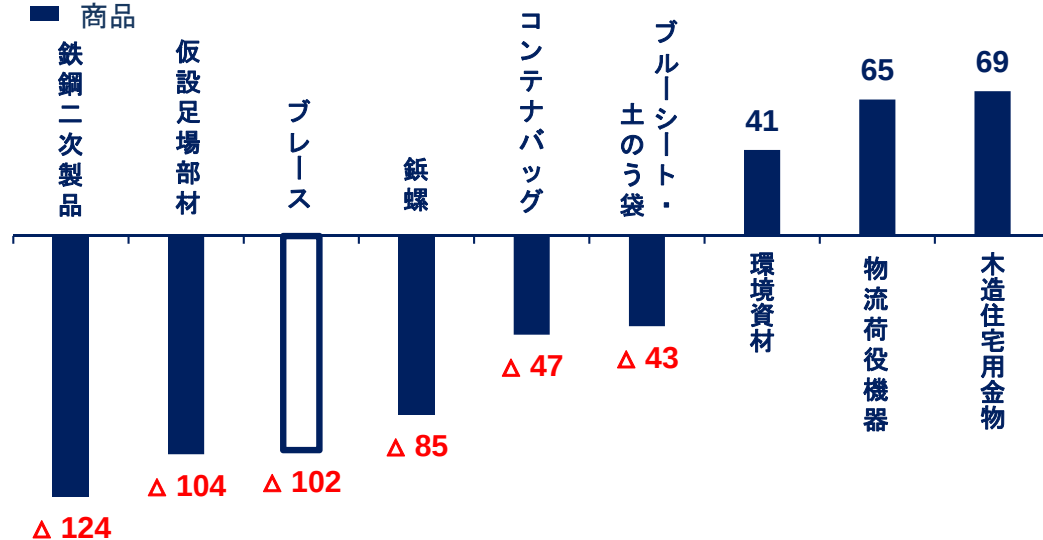
■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較

□ 製品
■ 商品



売上高増減要因

前年同期と比較して、約**380**百万円の減少。

除染工事の仮置場向け商材や太陽光発電の架台関連の需要が減少している。

□ 製品 約△160百万円

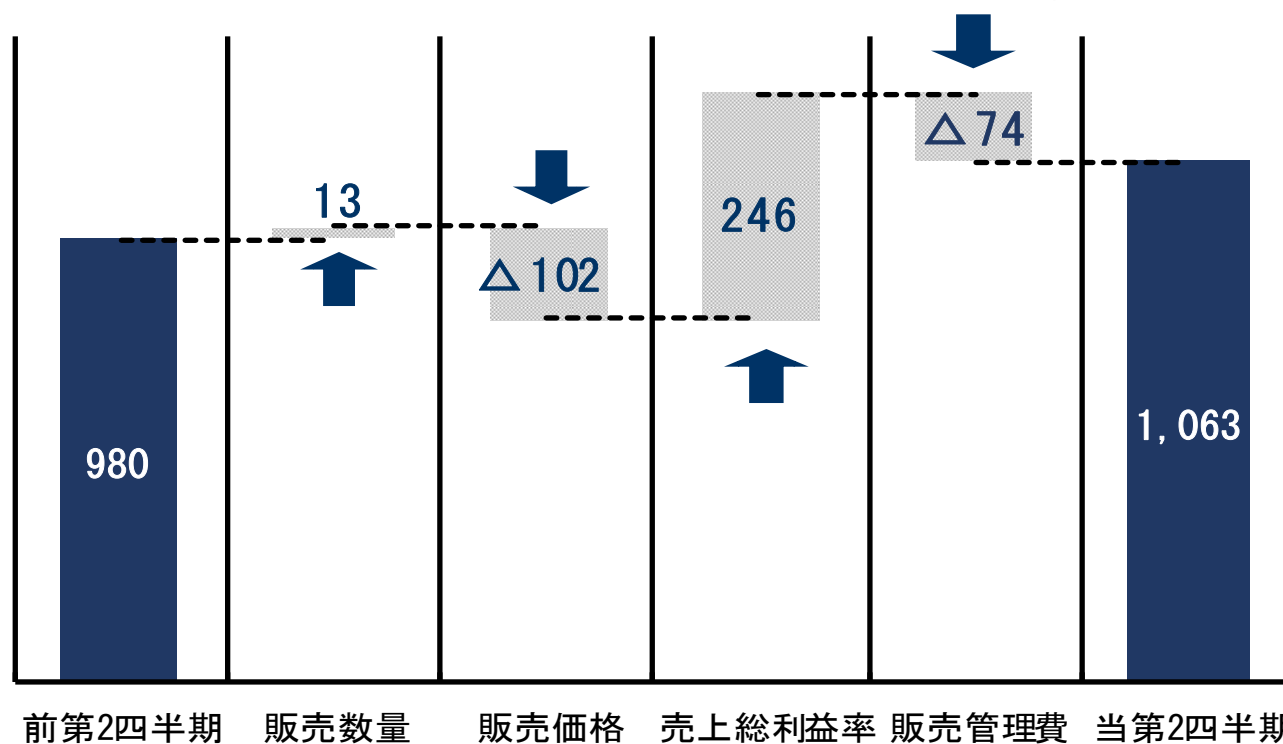
－ ブレース / △102百万円 前期に大口物件受注があったことによる反動減

□ 商品 約△220百万円

－ 鉄鋼二次製品 / △124百万円 太陽光発電の架台関連需要の減少
 － 仮設足場部材 / △104百万円 太陽光関連の需要減、除染工事関連の受注減少

セグメント利益又は損失 差異分析

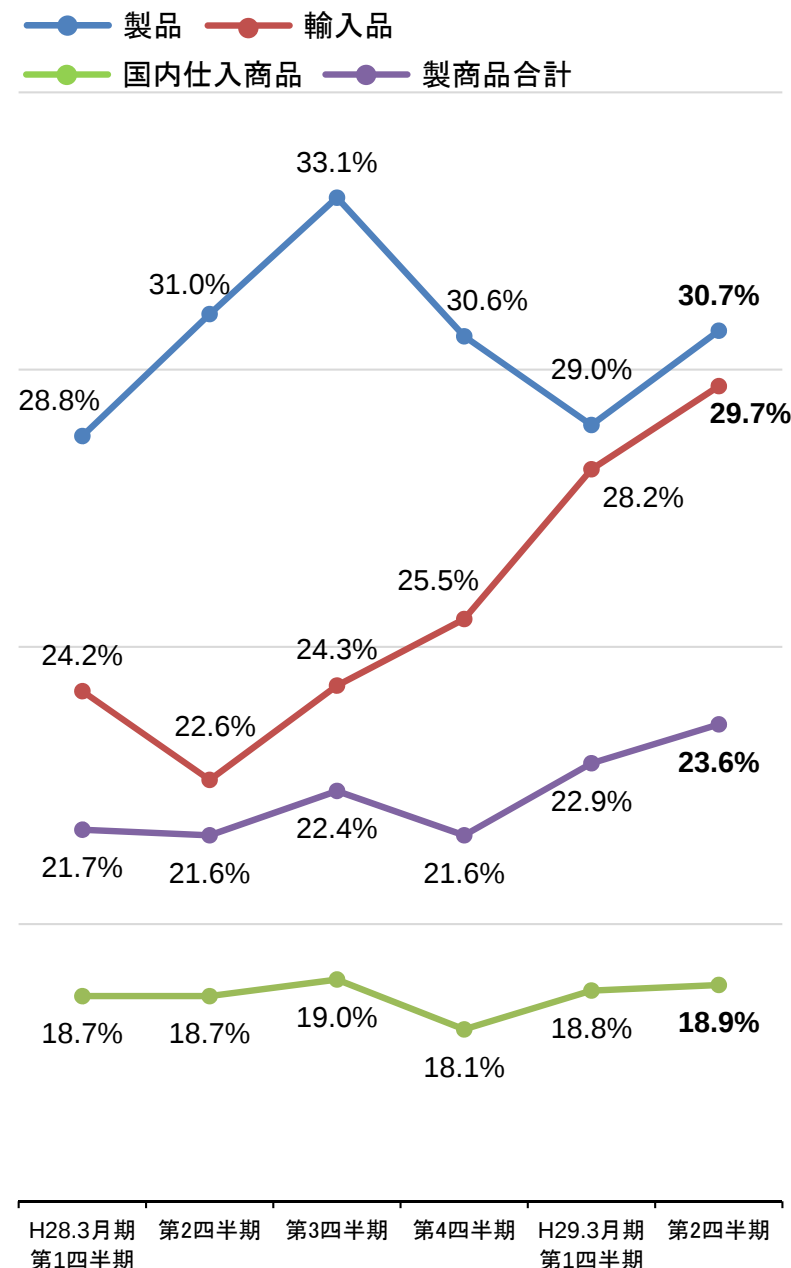
(単位：百万円)



販売数量	製品 △13百万円、商品 +26百万円
販売価格	製品 △36百万円、商品 △66百万円
売上総利益	製品 29.9%→29.9% 商品 20.3%→22.3% (※輸入品・国内仕入商品合計)
販売管理費	給料 +15百万円、減価償却費 +6百万円

※差異分析及び四半期別利益率推移には、タイ現地法人および中央技研は加味されておりません。

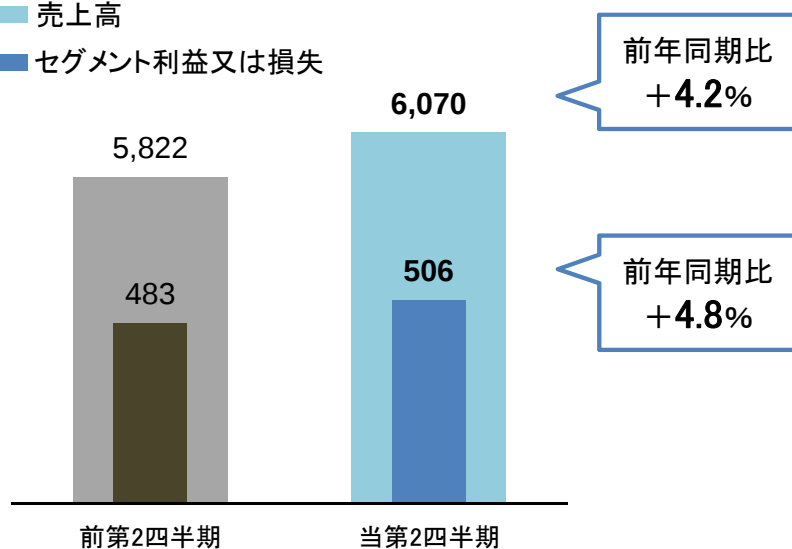
売上総利益率の四半期別推移



売上高・セグメント利益又は損失推移

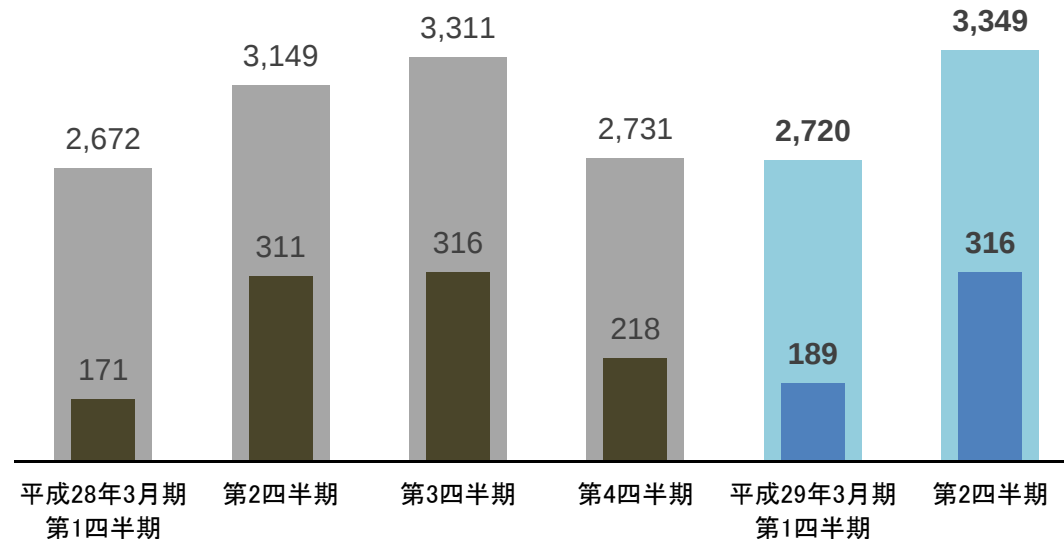
■ 前年同期比較

■ 売上高
■ セグメント利益又は損失



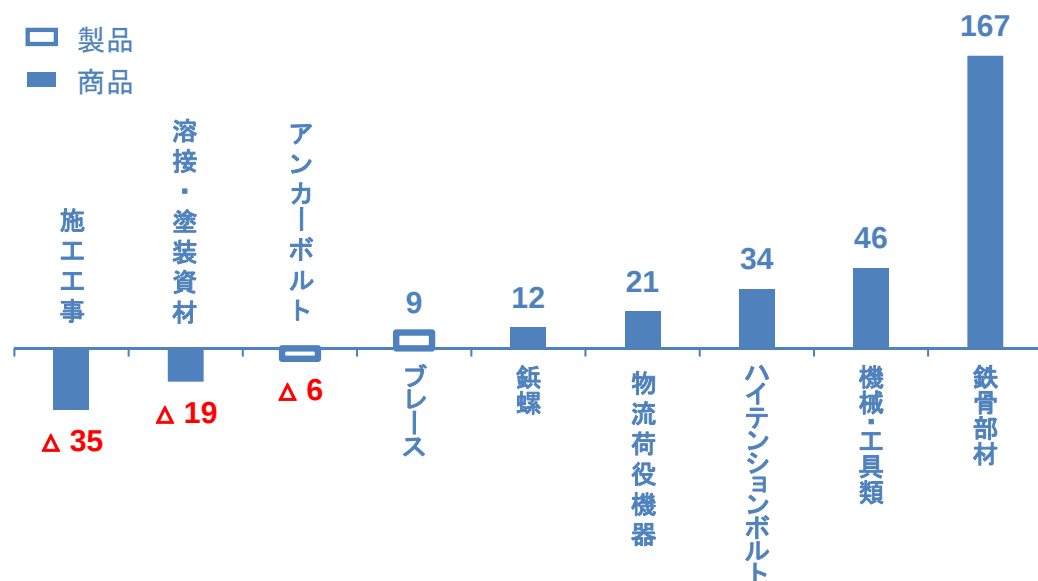
■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較

□ 製品
■ 商品



売上高増減要因

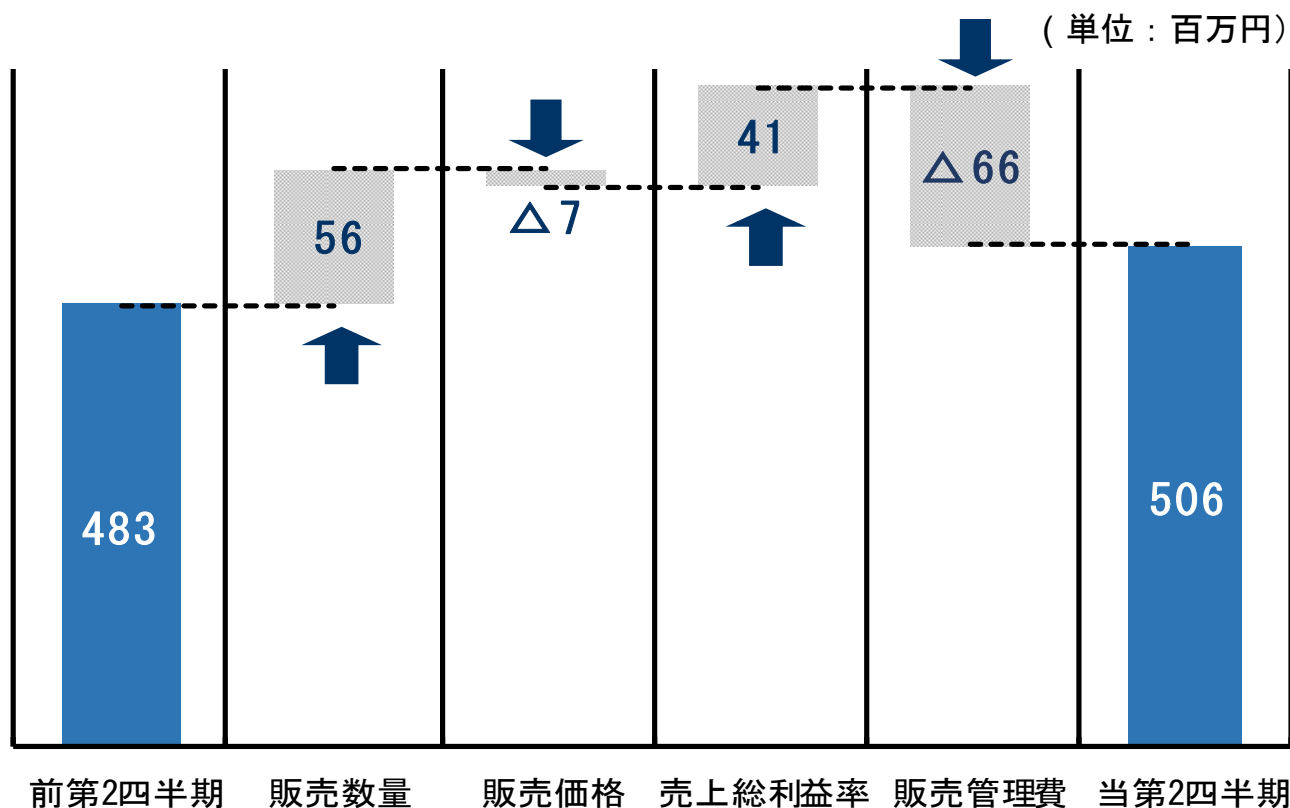
前年同期と比較して、約**250**百万円の増加。

停滞感のあった鉄骨需要は回復の兆しが見えはじめ、全体的な仕事量は安定して推移し、鉄骨加工業者の工場稼働率は上昇傾向にある中で、鉄構資材の商材の受注も比較的堅調に推移した。

□ 製品 約+10百万円
－ ブレース / +9百万円 物件の増加による受注増

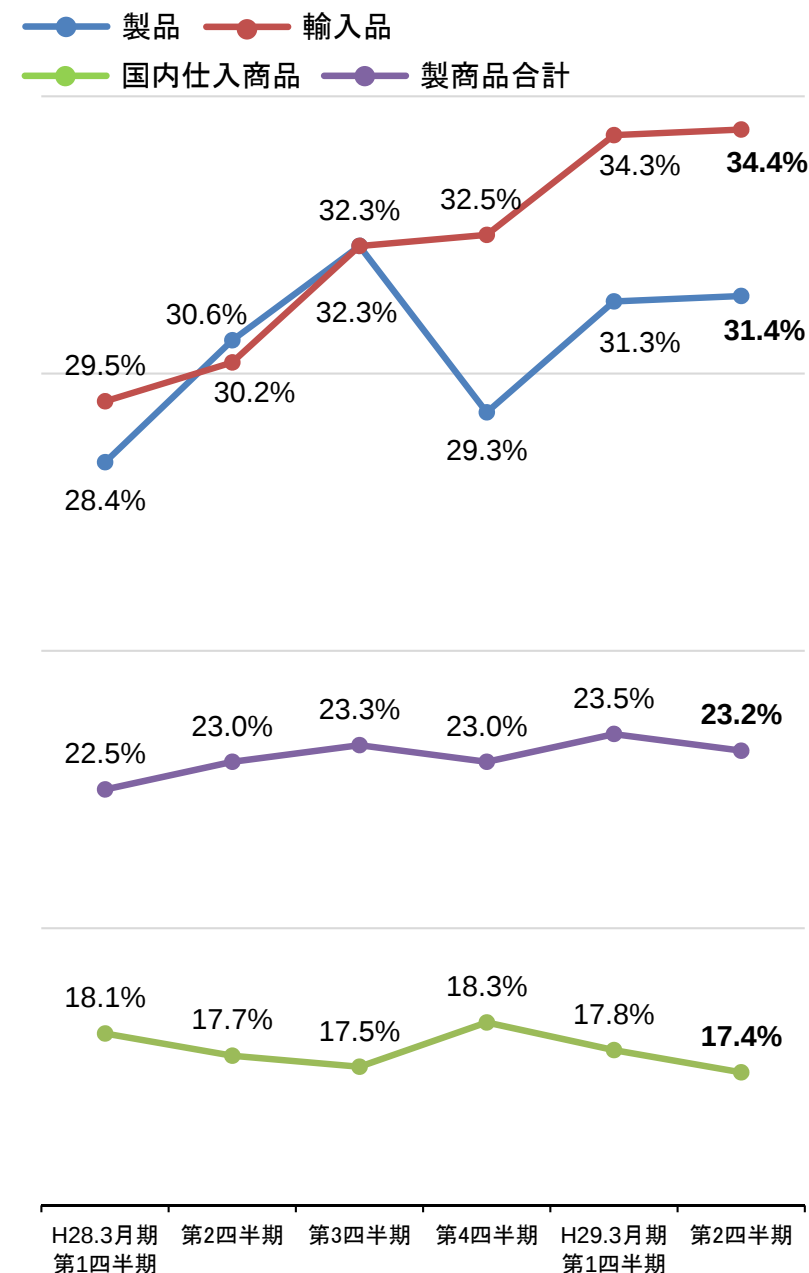
□ 商品 約+240百万円
－ 鉄骨部材 / +167百万円 加工品の受注好調による増加

セグメント利益又は損失 差異分析



販売数量	製品 +0.4百万円、商品 +55百万円
販売価格	製品 +2百万円、商品 △10百万円
売上総利益	製品 29.6%→31.3% 商品 19.2%→19.3% (※輸入品・国内仕入商品合計)
販売管理費	運賃荷造費 +19百万円

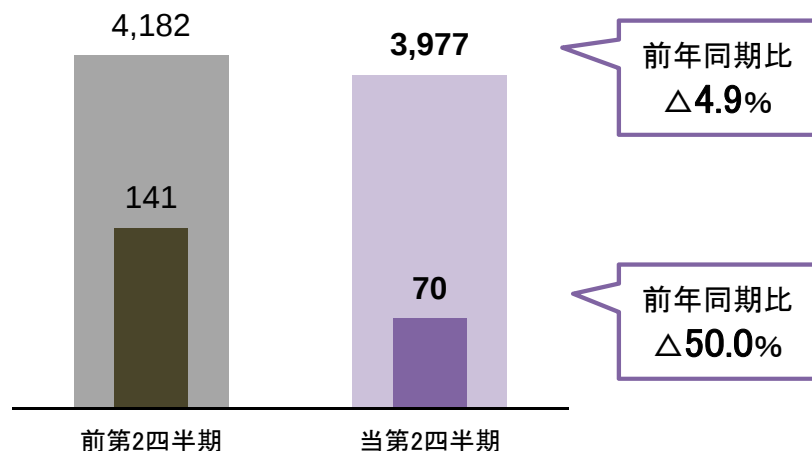
売上総利益率の四半期別推移



売上高・セグメント利益又は損失推移

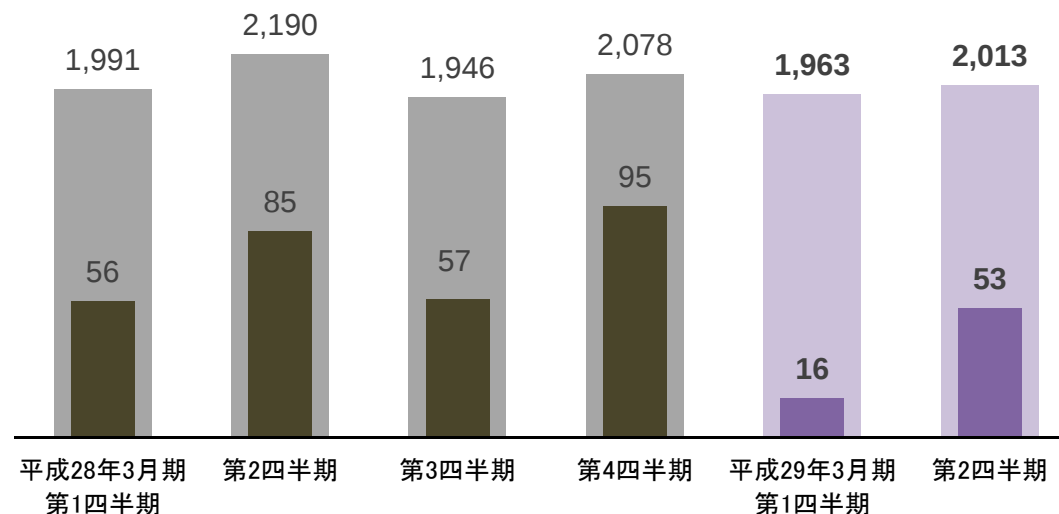
■ 前年同期比較

■ 売上高
■ セグメント利益又は損失

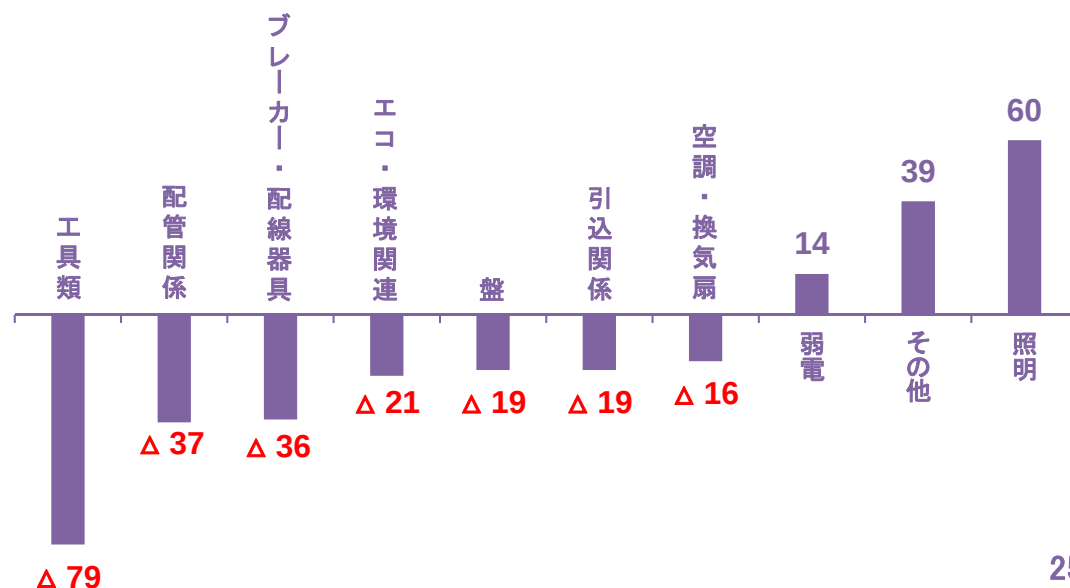


■ 四半期別推移

(単位：百万円)



製商品別売上高増減額 前年同期比較



売上高増減要因

前年同期と比較して、約**200**百万円の減少。

□ 照明 +60百万円

住宅、工場、民間施設向け照明設備の需要増(LED照明への取替等)

□ 工具類 $\Delta 79$ 百万円

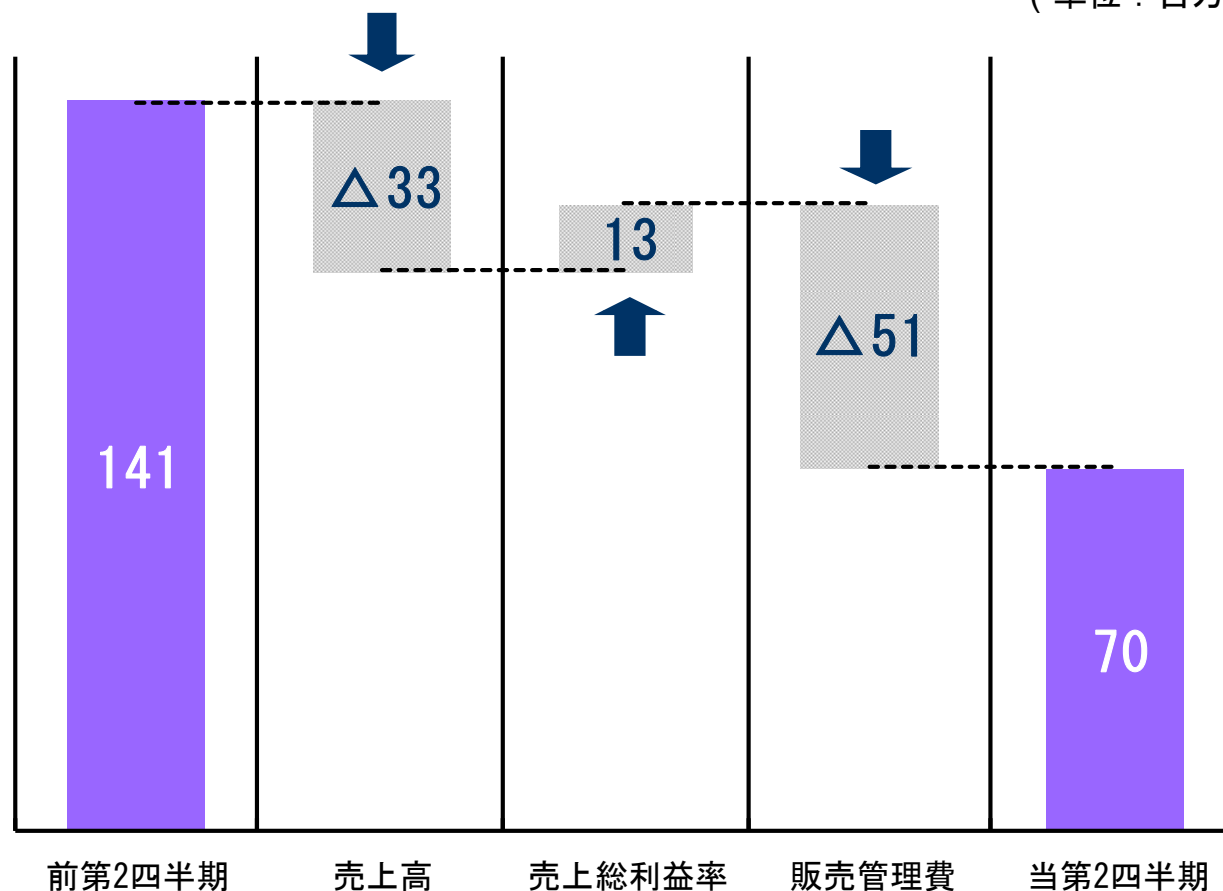
太陽光関連部材の売上減少

□ 配管関係 $\Delta 37$ 百万円

工場向け配管材の売上減少

セグメント利益又は損失 差異分析

(単位：百万円)



売上総利益

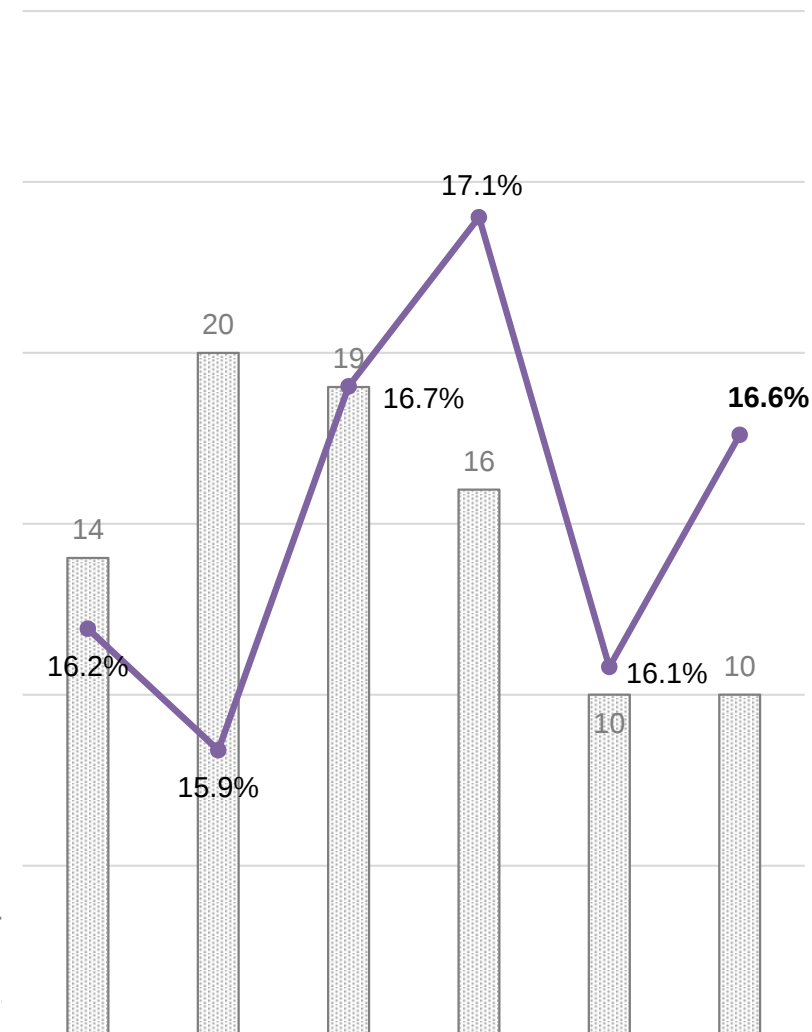
15.9%→16.2%

販売管理費

給与 +27百万円、募集費 +3百万円、
支払手数料 +1百万円

売上総利益率の四半期別推移

■ 物件数※(単位:件) ● 売上総利益率



H28.3月期 第2四半期 第3四半期 第4四半期 H29.3月期 第2四半期
第1四半期 第1四半期

※電気工事屋に対する5百万円超の物件を対象に集計

5.成長戦略

平成28年度建設投資見通し

- ❑ 政府投資・・・21兆7,300億円(前年度比0.8%増)
- ❑ 民間投資・・・30兆400億円(前年度比2.2%増)

※国土交通省、H28.7月発表『平成28年度 建設投資見通し』より



オーガニック成長

①4つの成長戦略

②震災復旧・復興需要

③異常気象への対応

④新商材の開発

⑤拠点展開

⑥三和電材(株)の新体制

ノンコア事業成長

①海外への取り組み

②M&A戦略

オーガニック成長① 4つの成長戦略

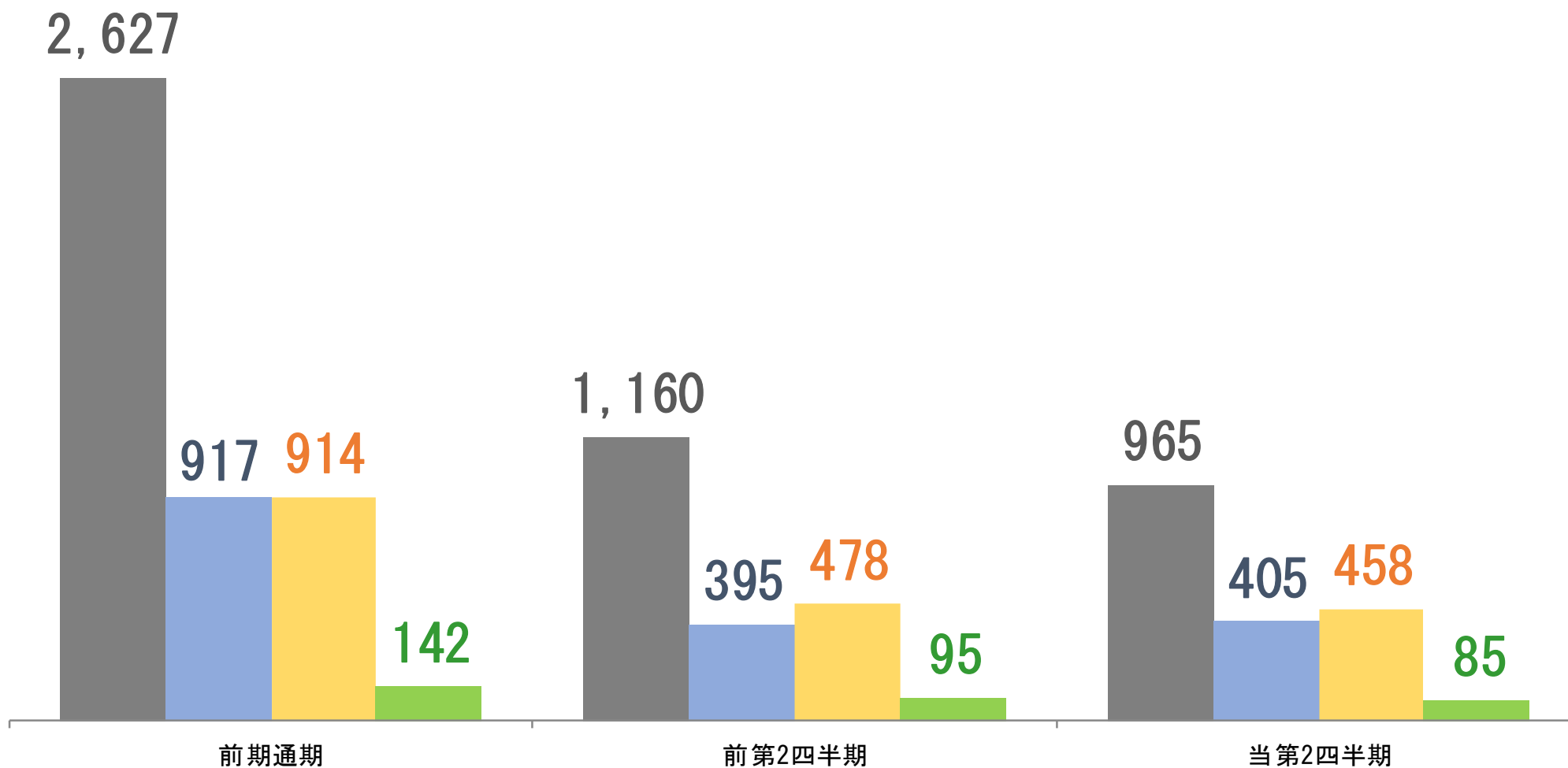
成長戦略 売上高推移

- ①新規販売先の開拓
- ②首都圏営業(本部サイドからの集中購買に対応)
- ③アンカー施工(製造に限らず、施工も実施)
- ④鉄道事業(角フックボルトの拡販)

(単位：百万円)

- 新規販売先の開拓※
- 首都圏営業
- アンカー施工
- 鉄道事業

※新規販売先への売上高
(当社のみ)



熊本地震への対応

熊本地震および東日本大震災関連資材の売上高(単体)推移 (単位:百万円)

	売上高						合計
	東日本大震災					熊本地震	
	H24/3月期 通期	H25/3月期 通期	H26/3月期 通期	H27/3月期 通期	H28/3月期 通期	H29/3月期 第2四半期	
ブレース	200	18	87	153	202	—	662
トラ網セット	126	—	—	—	—	—	126
コンテナバッグ	281	263	316	308	293	22	1,486
ブルーシート	152	153	203	254	266	44	1,075
土のう袋	52	51	79	108	146	6	443
その他	239	187	200	307	380	46	1,361
合計	1,053	674	887	1,132	1,288	120	5,156

※平成29年3月期より、熊本地震関連資材の売上高集計に切換え

過去発生した震災の被害推計額 (単位:兆円)

項目	阪神・淡路大震災 (H7.1.17発生)	東日本大震災 (H23.3.11発生)	熊本地震 (H28.4.16発生)
建築物等 (住宅・宅地、店舗・事務所、工場、機械等)	約6.3	約10.4	約1.6～3.1
ライフライン施設 (水道、ガス、電気、通信・放送施設)	約0.6	約1.3	約0.1
社会基盤施設 (河川、道路、港湾、下水道、空港等)	約2.2	約2.2	約0.4～0.7
農林水産関係 (農地・農業用施設、林野、水産関係施設等)		約1.9	
その他 (文教施設、保険医療・福祉関係施設、廃棄物処理施設、その他公共施設等)	約0.5	約1.1	約0.4～0.7
総計	約9.6	約16.9	約2.4～4.6

※内閣府HP及び国土交通省HPの情報を基に作成

需要の高まり

- 木造住宅の屋根部雨漏り対策
- 二次災害発生の恐れがある河川堤防の養生

緊急を要する資材の需要に対応すべく、ブルーシートや土のう袋等の出荷が増加。

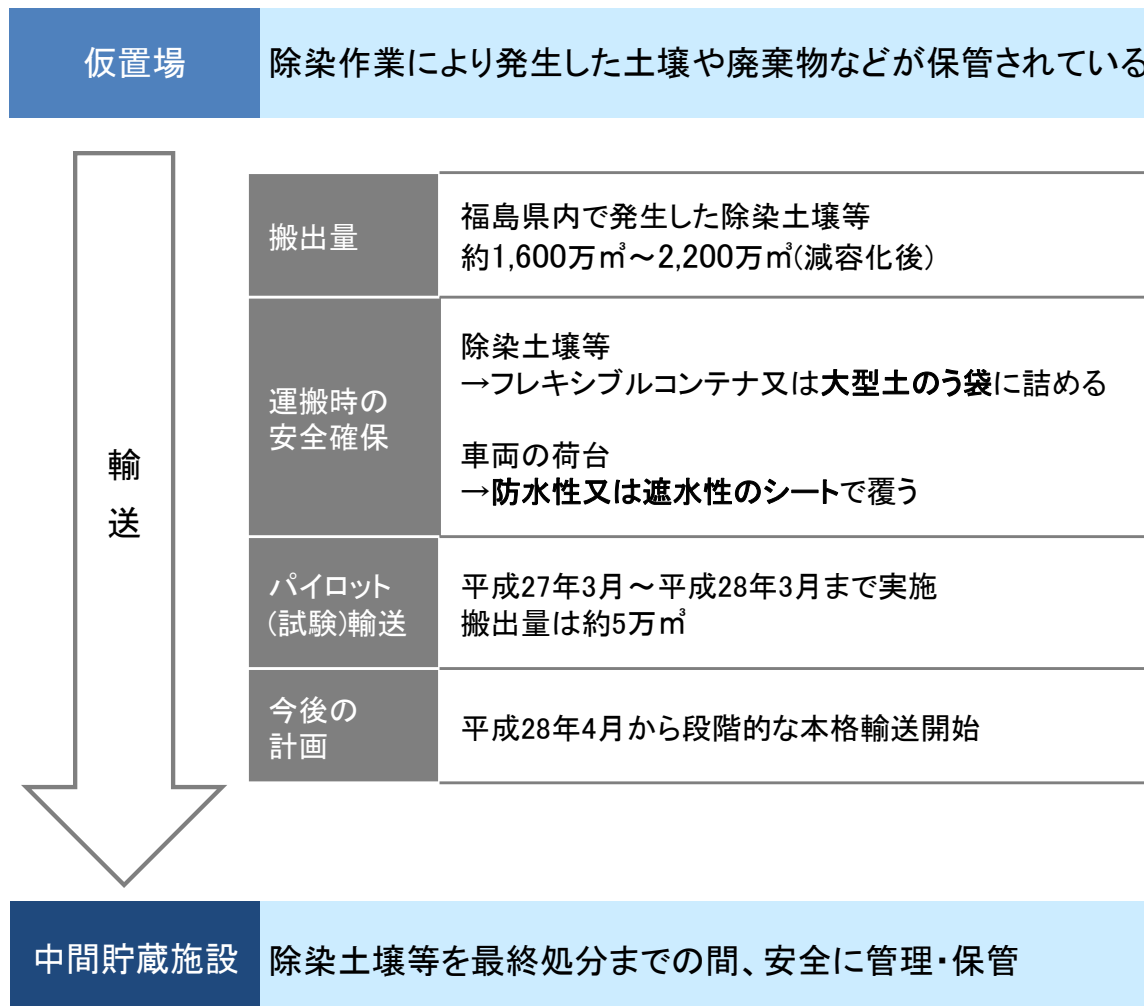
当社九州地方営業拠点



除染土壌等の中間貯蔵施設への輸送

- 東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて、環境中に放出された放射線物質を取り除く除染作業により発生した除染土壌等は福島県内各地の仮置場等に保管され、処分が待たれています。現在、除染土壌等の早期の搬出が大きな課題となっているため、除染土壌等を最終処分までの間、安全に集中的に管理する中間貯蔵施設へ輸送することが必要となっております。

中間貯蔵施設への輸送の流れ

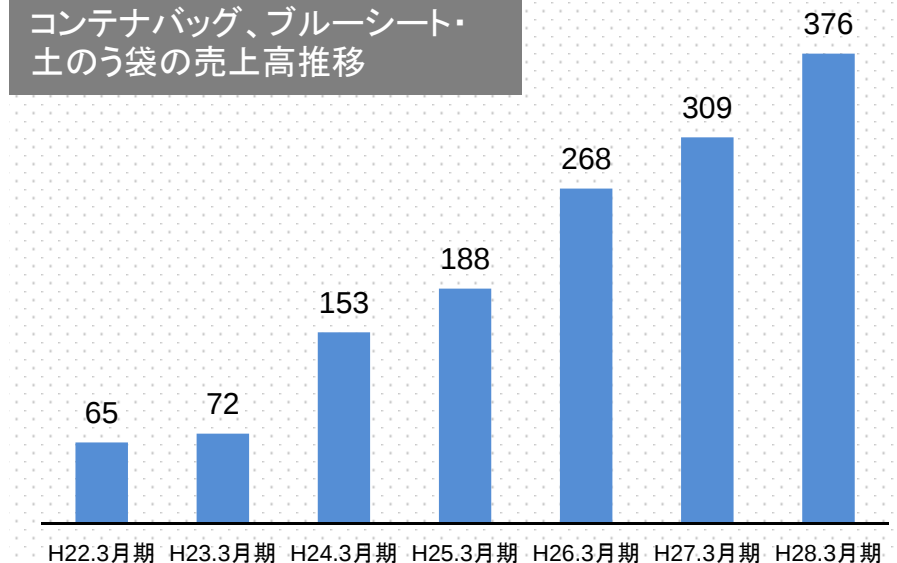


がれき・除染土の収納されたコンテナバッグ仮置場の様子



郡山営業所(福島県)
コンテナバッグ、ブルーシート・
土のう袋の売上高推移

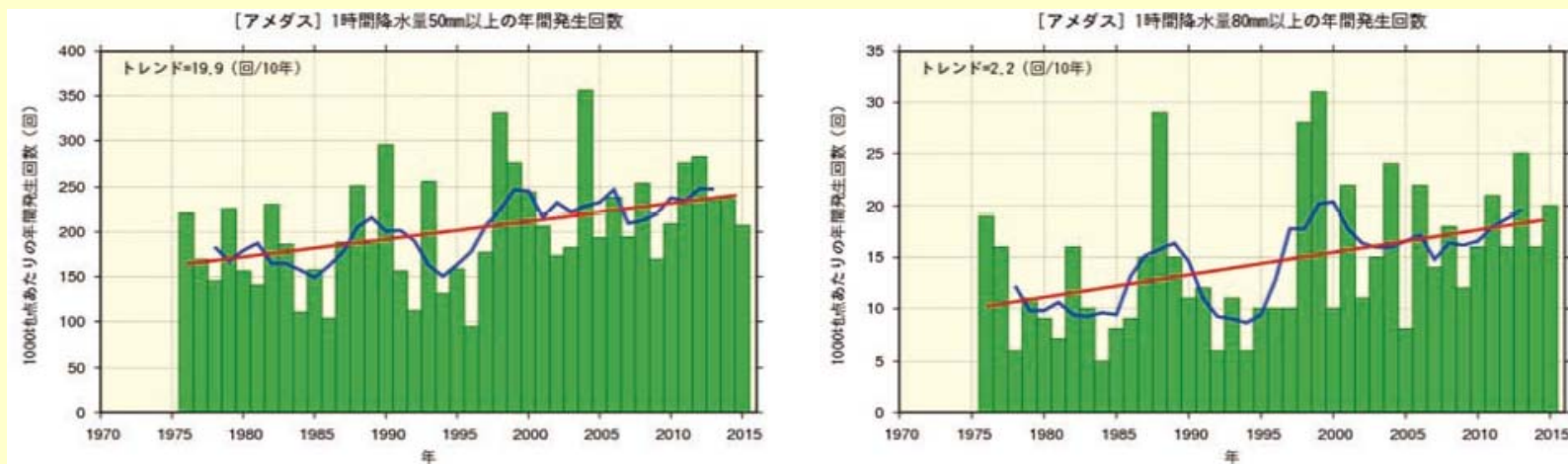
(単位: 百万円)



異常気象の動向

□ アメダスで見た大雨発生回数の変化

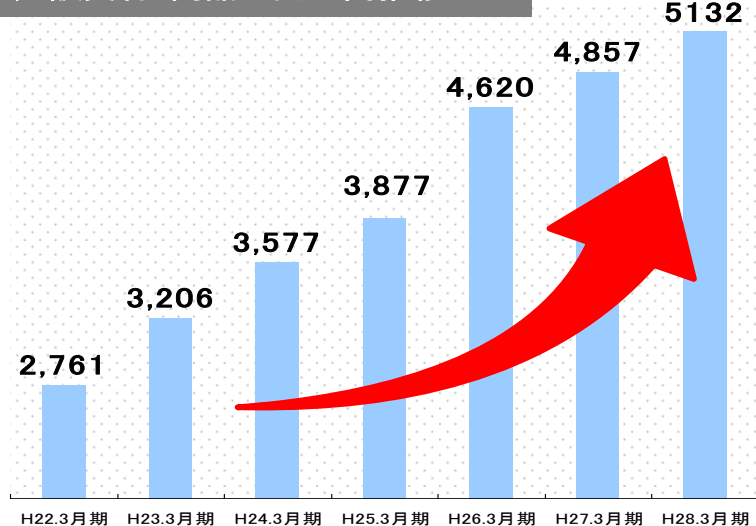
アメダスで観測された1時間降水量50mm及び80mm以上の短時間強雨の発生回数を年ごとに集計し、最近40年間の変化傾向をみると、両者ともに統計期間1976～2015年で増加傾向が明瞭に現れています。



※気象庁、H28.8月『気候変動監視レポート2015』より抜粋

建設資材4商品の売上高推移

(単位: 百万円)



直近6年間で、
約2,370百万円の増加

今後も大雨などによる被害が拡大する恐れがあるため、さらなる需要の伸びが予想されます。

※左グラフには、除染作業に使用されたコンテナバッグ、ブルーシート・土のう袋は、含まれておりません。

ブルーシート・
土のう袋類



コンテナバッグ



防災シート類



ネット・
シート類



新分野への取り組み

営業部門、製造部門合同の新商材委員会を開催し、新商材開発に積極的に取り組んでいます。

アルプス印 鉄滑車

NEWS 平成28年10月1日付けにて、(株)秋長製作所様の「アルプス印 鉄滑車」製造事業を譲り受けました。

当社が「アルプス印 鉄滑車」製造事業を継承することで、(株)秋長製作所様の持つ製造技術の活用とともに、製品・サービスのさらなる向上を図ってまいります。

※「アルプス印 鉄滑車」の内、一部製造しない製品もございます。

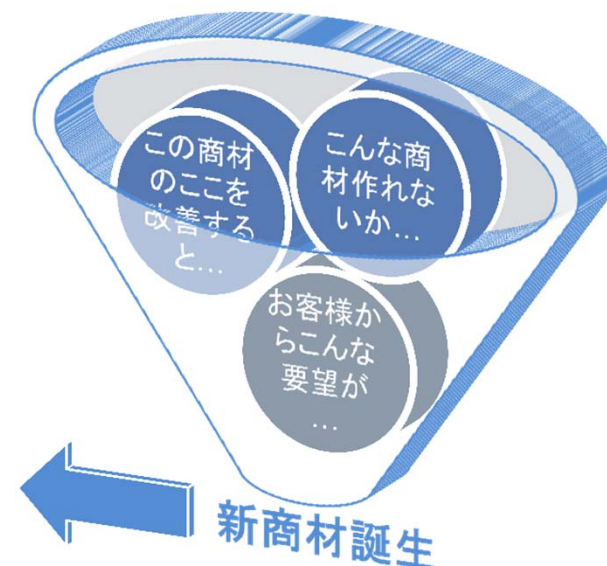


平成28年10月より、当社工場にて製造開始!

◀ アルプス印 鉄滑車

安定した強度で安全性に優れ、長期間の使用にも耐える滑車。

譲受の理由	(株)秋長製作所様におきまして、オフィス・ロジスティック・サポート事業への経営集中を図るため。
譲受事業	「アルプス印 鉄滑車」製造事業
事業譲受日	平成28年10月1日



さらに・・・

連結子会社 中央技研(株)と連携し、開発力の向上を目指します。

中央技研(株)会社概要

設立	昭和56年	資本金	45百万円
事業内容	各種機械装置、省力化機器、搬送ライン等の設計製造業 自動車、家電関連向けの電子部品、産業機械ほか、各種機械装置を手掛ける		

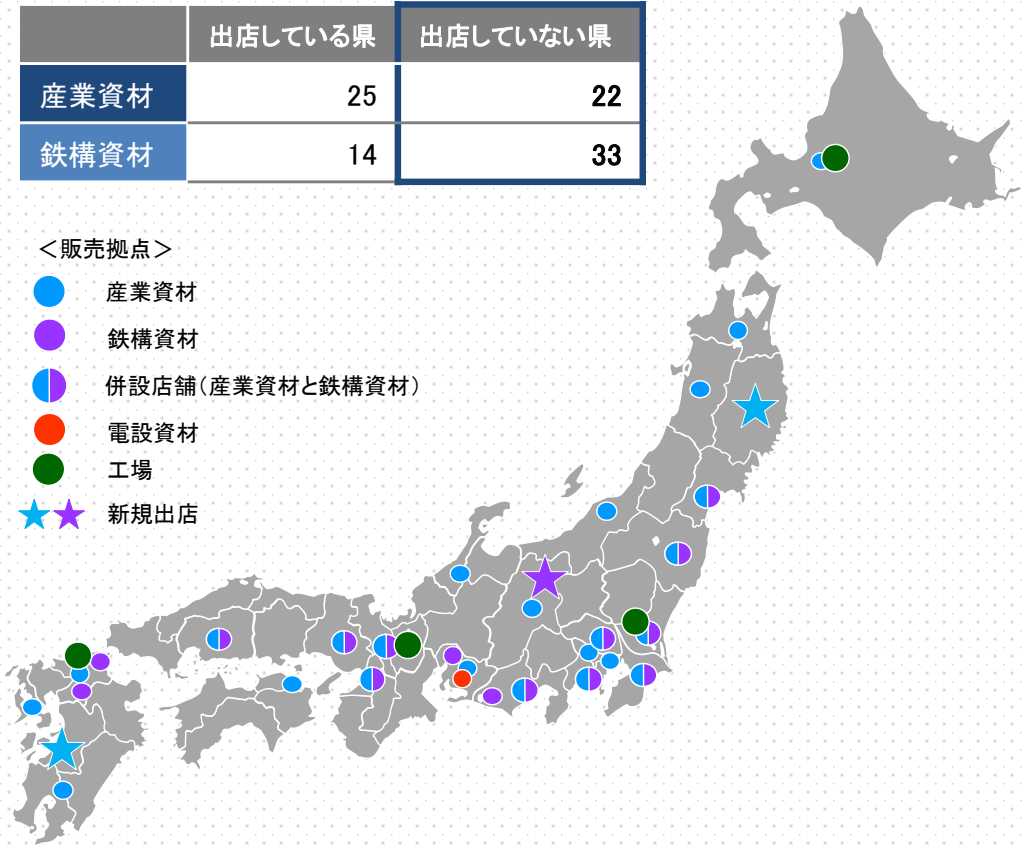
盛岡・長野・熊本に営業所を開設

- 平成27年7月に盛岡営業所、平成28年1月に長野営業所、また平成29年3月期において、平成28年4月に熊本営業所を開設いたしました。
今後とも、お客様のニーズに迅速に対応すべく地域に密着した販売体制を整え、クイックデリバリーで顧客重視の経営を実現してまいります。

全45販売拠点へ拡大

	出店している県	出店していない県
産業資材	25	22
鉄構資材	14	33

- <販売拠点>
- 産業資材
 - 鉄構資材
 - 併設店舗(産業資材と鉄構資材)
 - 電設資材
 - 工場
 - ★ ★ 新規出店



新規出店

平成27年7月 盛岡営業所



平成28年1月 長野営業所



平成28年4月 熊本営業所



平成18年 秋田営業所
福島営業所

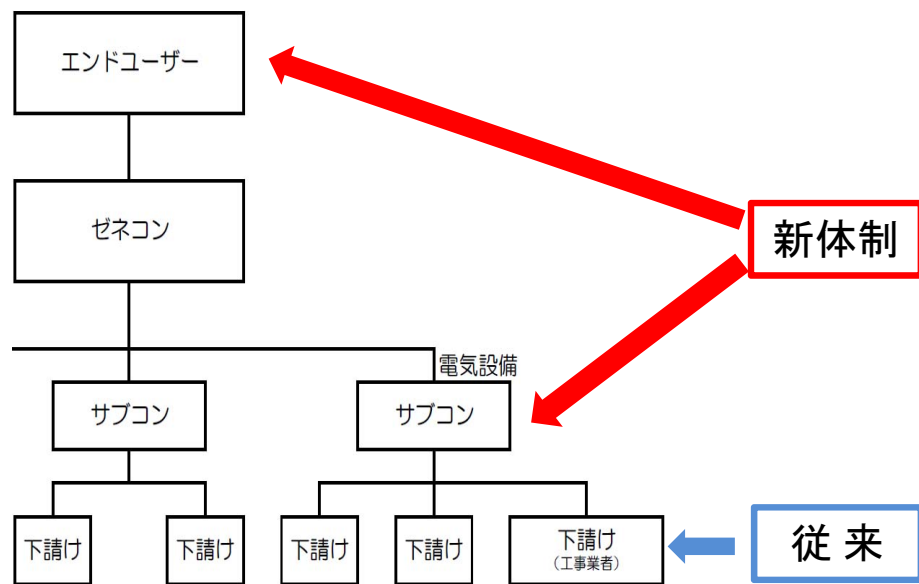
平成23年 東日本大震災

平成24年 東北営業所

三和電材(株) 新たな取組みを開始 ～売上高100億円企業を目指して～

- 当社の関連会社である三和電材(株)が平成28年4月より、2020年以降も確実に成長することを目的に経営基盤の強化を図るため、新体制を開始しました。

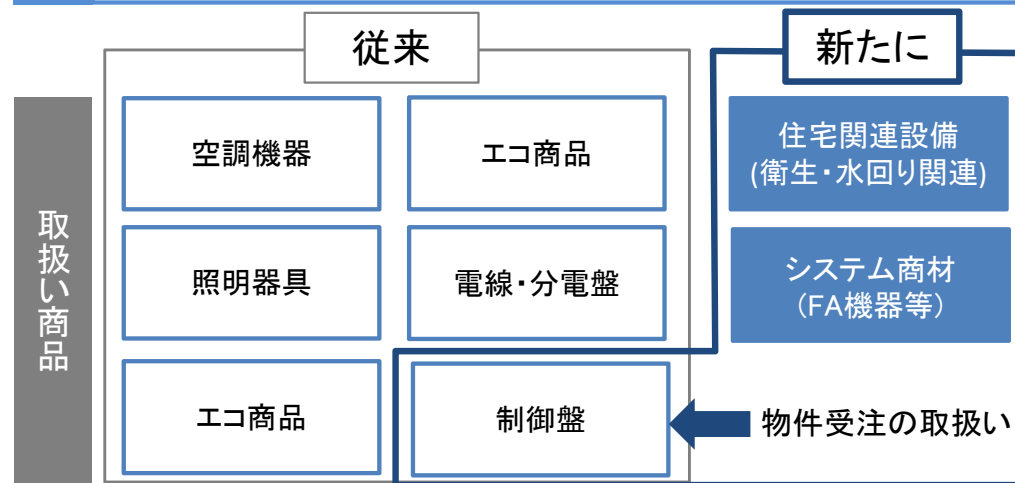
1 直需事業の強化、工事機能の組織化



- 新たに電設営業所を新設、商材の卸しだけでなく、工事機能を組織化
- ハウスメーカー、エンドユーザーへの直需事業機能の推進

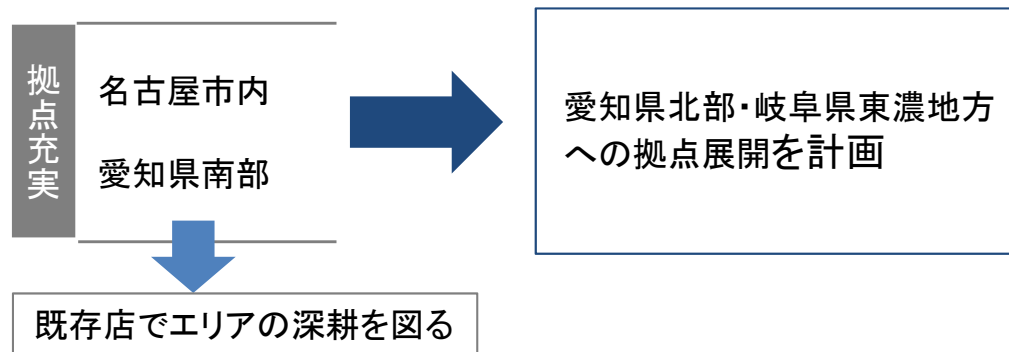
→ 受注拡大を目指す

2 取扱い商品の拡充



3 販売エリアの拡大

- 電設卸売事業の拡大に向け、営業展開が手薄であり基盤固めに必要となるエリアに新規営業所の設置を計画。



タイ現地法人の設立・子会社化

- 経済発展が著しいタイ、インドネシア、ベトナムといったASEAN諸国との海外取引（建設資材等の新規需要への取り組み）を強化すべく、平成24年11月、タイ現地法人を設立いたしました
- 平成26年8月、タイ現地法人の増資を行い増資後、共同出資会社2社より全所有株式を取得し、実質的に当社の完全子会社といたしました。事業拡大に向けた財務基盤の強化を図り、さらなる輸出強化の布石といたします。

タイ現地法人の会社概要



平成29年3月期第2四半期の状況

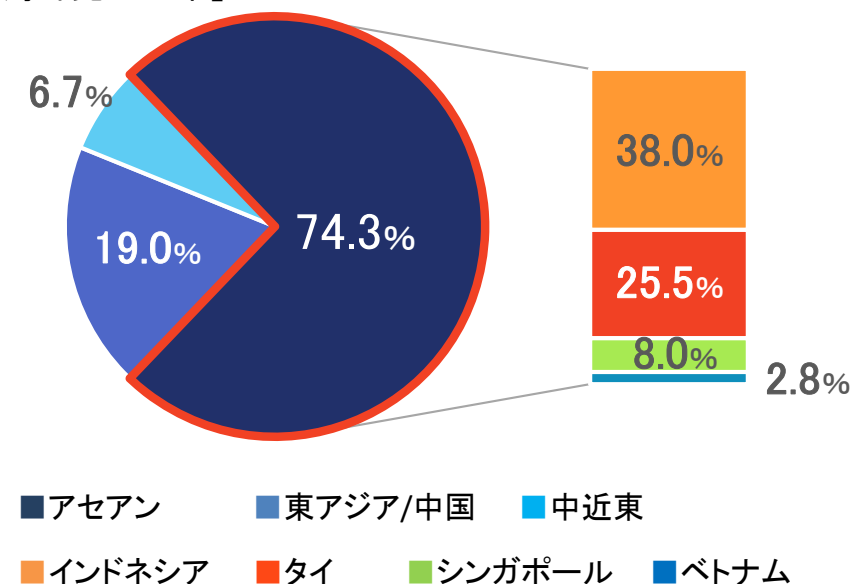
【海外売上高】

(単位:百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	計画
海外営業部	66	41	119
タイ現地法人	132	120	400
合計	198	162	519

※グループ間取引金額は含まれておりません。

【国別海外売上比率】





様々な成長戦略に着手し、**売上高 1,000億円**を目指す！

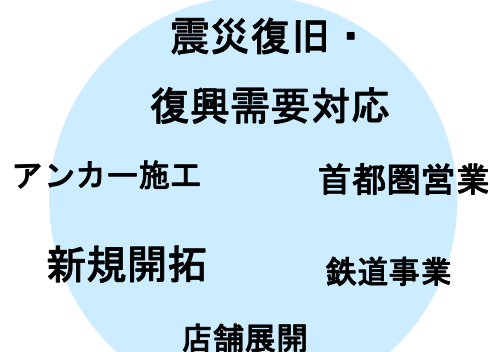
(単位：億円)

NEW

事業戦略室

- 平成28年10月1日におきまして、既存コア事業の更なる拡大と建築資材以外の周辺業界への事業展開を推し進め、企業価値向上を実現するため、新たなステージとして取締役会直轄の事業戦略室を新設いたしました。
- 10年先、20年先を見据え、当社が将来にわたって持続的に発展し続けるために、新たな取り組みに踏み出し、展開を図ってまいります。

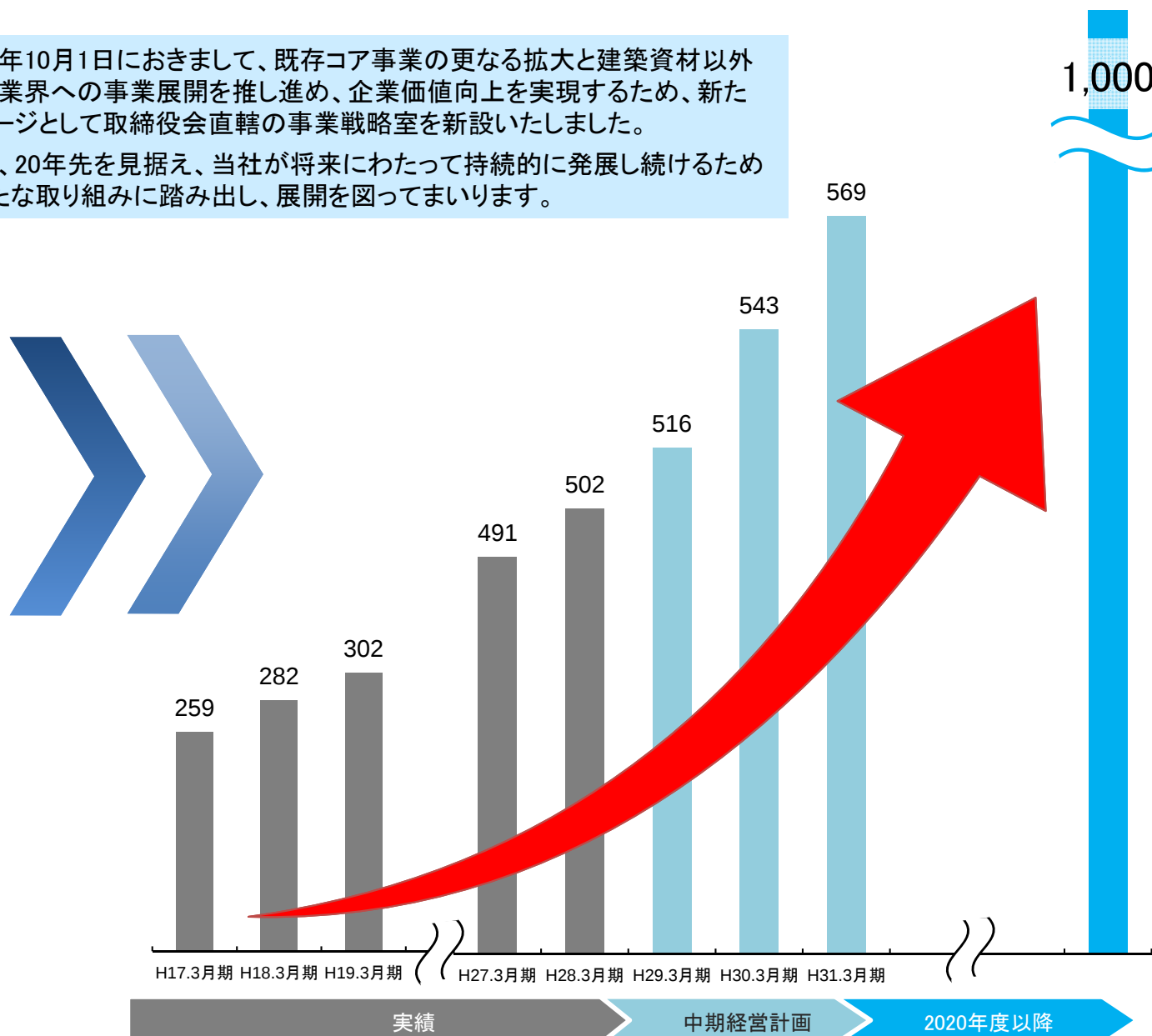
オーガニック成長



ノコア事業成長

M & A

海外事業



6.株主還元

- ROE10%以上、DOE2.5%以上を目標とし、**継続的・安定的な配当**を実現
- 保有株式数に応じて、お米券を年1回贈呈

※DOE…純資産配当率。株主の皆様への利益配分を示す**配当性向**と、資本効率を示す**ROE**の2つの要素から構成される指標。

配当の推移

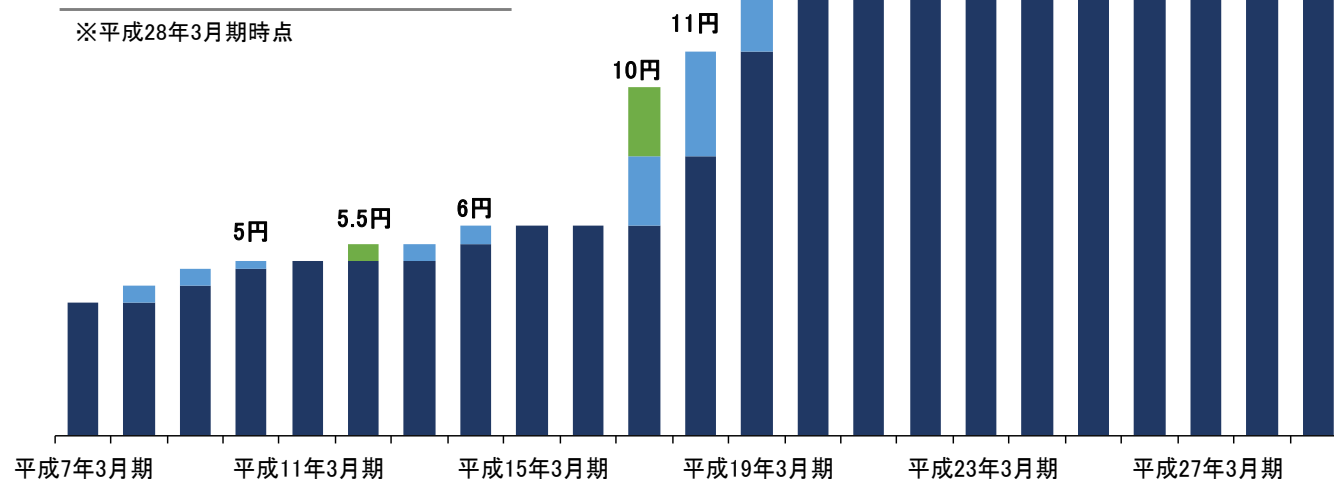
■ 普通配当 ■ 普通配の増配分 ■ 記念配当

上場以来、減配なし

配当に関連する経営指標

ROE	配当性向	DOE
10.9%	26.3%	2.8%

※平成28年3月期時点



※平成24年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。これに伴い、1株当たり配当金は当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を表記しております。

配当利回り

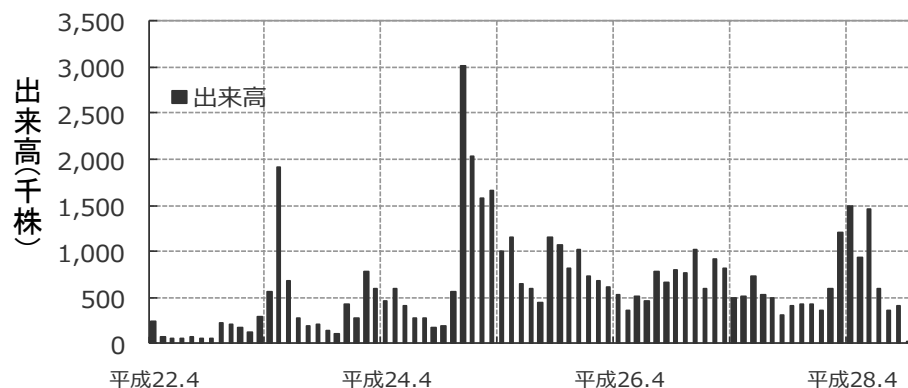
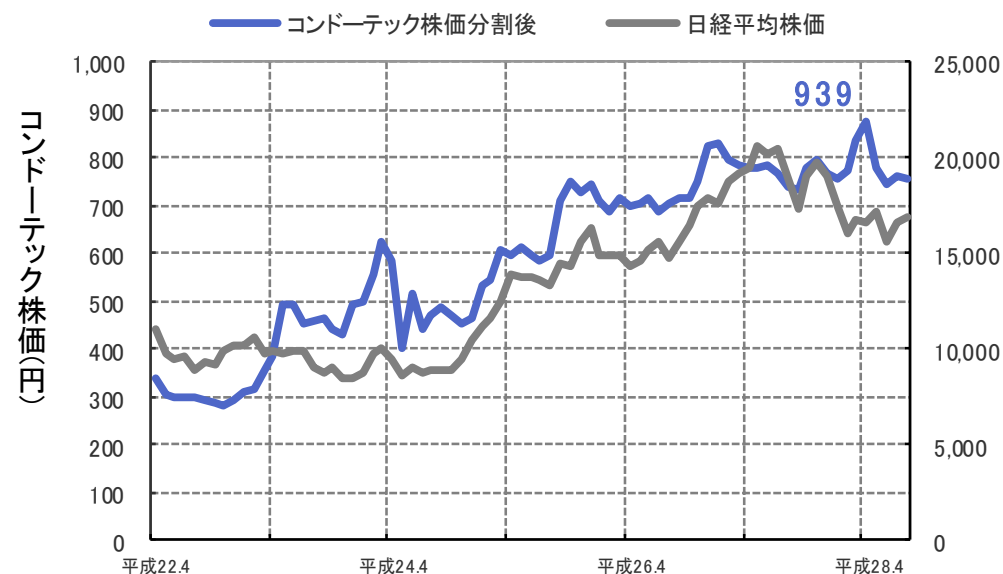
10月25日終値 **787円**

配当利回り	2.9%
優待込み配当利回り	~4.0%

株主優待

保有株式数	優待内容
100株以上 1,000株未満	お米券2kg分
1,000株以上 10,000株未満	お米券5kg分
10,000株以上	お米券10kg分

※おこめ券1kg分は440円相当となっております。



※平成24年1月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。
これに伴い、株価、出来高は当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行なった場合の終値を表記しております。
※平成24年12月に公募増資、第三者割当増資を行っております。

当社の上場企業におけるランキング順位

2016年6月30日終値 745円 上場企業3,644社中...

時価総額

1,504位

純資産

1,548位

経常利益額

1,214位

当期純利益額

1,193位

PBR

1,711位

PER

2,650位

ROE

971位

※データはみずほ証券資料を参照。ランキングは、2016年6月30日時点のもの。

当社の時価総額は、20,827百万円

仮に当期純利益の順位が企業価値(時価総額)を表す物差しとすると、
時価総額1,193位の時価総額は、32,483百万円。
その場合当社株価は、1,161円となります。

10月25日終値 787円
PER: 9.1 PBR: 1.02

EPS: 86.61円 (H29.3期予想)
BPS: 774.18円 (H28.3末)で計算

見通しに関する注記事項

本資料には、業績見通しおよび事業計画等を記載しております。
それらにつきましては各資料作成時点における経済環境や事業方針等の一定の前提に基づいて作成しております。
したがって、実際の業績は様々な要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。



〒550-0024

大阪市西区境川二丁目2番90号

TEL : 06 (6582) 8441 (代表) FAX : 06 (6582) 8410

ホームページ : <http://www.kondotec.co.jp>

E-mail : kikaku@kondotec.co.jp (総務部)